

PDF オートコンバータ EX V2.4/V2.5/V2.6

インストール・ガイド

<< 目次 >>

1	このマニュアルにつきまして(重要)	4
1.1	最近の環境に関する注意事項	4
2	シングル版とマルチ版について(重要)	5
2.1	事前確認メールのお願い	5
2.2	ご注意頂きたい事項の詳細	6
2.3	機能・制限の比較表	6
3	インストールに必要な環境	7
3.1	推奨ハードウェア環境	7
3.2	S/W 環境	7
3.2.1	OS	7
3.2.2	動作確認アプリケーション	7
	インストール前に	8
3.3	設定・確認事項	8
3.3.1	必要な確認事項	8
3.3.2	正常な動作をしない環境	8
3.3.3	不安定な動作となる可能性のある環境	8
3.3.4	注意事項	8
3.3.5	PDF オートコンバータ EX を 64bitOS 上で動作させる場合の注意事項	9
4	インストール手順	10
4.1	PDF コンバータのインストール	10
4.2	PDF オートコンバータ EX のインストール	10
4.2.1	32bit 版の場合	10
4.2.2	64bit 版の場合	16
5	【重要】WINDOWSSERVER2008/VISTA/WINDOWS7 における必須の設定	23
5.1	発生する問題	23
5.2	発生条件	23
5.3	必要な設定1(32BITで32BITアプリをPDF変換する場合)	23
5.4	必要な設定2(64BITで32BITアプリをPDF変換する場合)	24
5.5	必要な設定3(64BITで64BITアプリをPDF変換する場合)	24
5.6	上記(5.3または5.4、5.5)を設定しても、「611」というエラーになる場合	24
5.6.1	Excel だけエラーになる場合	24
5.6.2	それでも問題が解消しない場合	24
5.6.3	フォルダを作成しても解決しない場合の回避方法	25
6	共通で設定が必須の事項	27
6.1	エラー時のダイアログ抑止(WINDOWSXP / SERVER 2003 の場合)	27
6.2	エラー時のダイアログ抑止(P.6 にない環境 / 7 / SERVER2008 の場合)	28
6.2.1	Windows Server 2008 のエラー報告ダイアログを無効にする方法 1	28
6.2.2	Windows Server 2008 のエラー報告ダイアログを無効にする方法 2	30

7	アプリごとの変換に必要な設定(必須)	34
7.1	EXCEL・WORD の用紙設定	34
7.1.1	Office2003 の場合	34
7.1.2	Office2007 の場合	37
7.1.3	Office2010 の場合	39
7.2	EXCEL オプションの設定(XLS 変換オプション)	44
7.2.1	設定方法	44
7.2.2	設定を変更する場合(通常の場合、以下の設定は不要です)	44
7.3	EXCEL/POWERPOINT 2007/2010 限定の設定	45
7.3.1	PowerPoint の印刷効果の設定(この設定は PPT の PDF 変換で Office2007/2010 の場合必須です)	45
7.3.2	Excel の印刷効果の設定(この設定は Excel の PDF 変換で Office2007/2010 の場合必須です)	46
7.4	POWERPOINT2010 限定の必須設定	47
	この設定は PowerPoint を Office2010 で変換する際は必須です	47
7.5	OFFICE 2007/2010 をご使用する場合の注意点	49
7.6	OFFICE2007/2010 で使用する場合に必須の設定	52
7.6.1	発生する問題	52
7.6.2	処理を停止しない為に行うべき設定	52
7.7	OFFICE2007/2010 で WORD を使用する場合に必須の設定	53
7.7.1	発生する問題	53
7.7.2	処理を停止しない為に行うべき設定	54
7.8	一太郎の設定(一太郎を変換しない場合、以下の設定は不要です)	55
7.8.1	制限事項	55
7.8.2	PDF オートコンバータ EX の一太郎対応状況につきまして	55
7.8.3	拡張子別設定の調整	56
7.8.4	アウトラインファイルの変換の設定	57
7.9	標準サポート以外のアプリケーションを変換する場合の設定	59
7.10	PDF ファイルのフォント埋め込み	61
7.11	イメージ変換オプションの設定	62
7.11.1	使用方法	62
8	有償オプションの設定	64
8.1	OCR オプション(別途有償)	64
8.1.1	使用方法	64
8.2	セキュリティ変更/ファイルチェックオプション(別途有償)	66
9	どのように PDF を作成するのか	67
9.1	重要 PDF 作成方法によって各マニュアルを参照ください。	67
9.1.1	JavaAPI からの変換と C の DLL からの変換を使う場合	67
9.2	サービス変換	68
9.2.1	サービスの登録	68
9.2.2	注意事項	71
9.3	フォルダについて	72
9.3.1	フォルダの構成(デフォルト環境の場合)	72
9.3.2	フォルダの作成	73
10	アンインストールの方法	74

10.1	アンインストールの方法	74
11	困ったときは	76
11.1	動作時	76
11.1.1	サービスを使ってPDFオートコンバータ EX が動かない時	76
11.2	上記のフォローに対応しても変換が上手くいかない場合	77
11.2.1	すべてのファイルが変換できない場合	77
11.2.2	Office だけすべてのファイルが変換できない(画像等は変換できる)	77
11.2.3	Excel だけすべてのファイルが変換できない場合	77
11.2.4	特定のファイル名のファイルだけ変換できない場合	78
11.2.5	特定のファイルだけ変換できない場合	78
11.2.6	お問い合わせについて	79

1 このマニュアルにつきまして(重要)

1.1 最近の環境に関する注意事項

本マニュアルは非常に長いため、マニュアルを見ずにインストールしてしまう方も多いかも知れませんが、

6. 【重要】Windows Server 2008/Vista/Windows 7 における必須の設定

7. 共通で設定が必須の事項

8. アプリごとの変換に必要な設定(必須)

を設定しないと、運用開始時に安定して動作しないリスクがあります。必ずマニュアルを見て設定をお願い致します。

2 シングル版とマルチ版について(重要)

PDF オートコンバータ EX は Ver.2.0 よりシングル版とマルチ版が存在します。

シングル版をご検討の方は、以下の内容は関係ありません。

次の章(インストールに必要な環境)をご確認ください。

マルチ版をご検討のお客様へ

2.1 事前確認メールのお願い

マルチ版は環境やシステム構成によっては、性能を発揮できない可能性が非常に高い製品です。

ご検討される方は必ず以下のアドレスにメールのうえ、実際の挙動を確認頂いた上で、販売させていただきます。

メール送信先 `eigyo@iothe.co.jp` 株式会社ワイ・エス・エス 営業部

御社名/部署名/お名前

電話番号

環境の詳細

OS(32/64bit)

CPU(クロック数/CPU 数/コア数)

メモリ

HDD の I/F、回転数

開発言語(Java の場合 JDK バージョン)、AP サーバ等

マルチ版を使用するシステムの詳細

マルチ版を使用したい理由

変換要求頻度

対象ファイル

ファイル詳細(ページ数、ファイルサイズ)

変換ファイル数/時間

その他特記事項

2.2 ご注意頂きたい事項の詳細

- マルチ版は Word、Excel、TIFF (G3・G4)、JPEG/BMP/PNG/GIF の PDF 変換しかサポートされません。
- マルチ版はプログラムインターフェース (Java or C) を使用しないと意味がありません。
- マルチ版はシングル版と比べて、製品価格が約4倍です。見積依頼の際に必ずどちらかお知らせください。
- 体験版のライセンス番号はライセンス設定のプログラミングインターフェースライセンス番号のスレッド対応のリストボックスを切り替えれば、シングル版・マルチ版の両方を評価できますが、正式ライセンスはマルチ版とシングル版それぞれに専用ライセンス番号があります。購入後のトラブルを避けるためにも、マルチ版は当社に問い合わせのないお客様には販売できませんのでご注意ください。
- マルチ版は最大4つまでのマルチスレッドをサポートします。必ずスレッド数以上の CPU 数またはコア数のあるマシンをご選択ください。(他の処理も同時に稼動する場合、更に余裕を持たせてください)。
- 4スレッド以上の処理は、OS や Office、HDD の処理能力により、逆に処理スピードの低下をもたらします。必ず上位アプリ側で CPU 数コア数の余裕分かつ、4 スレッド以下に制御してください。それ以上の 5 スレッド以上の処理は、弊害はありますが、まったく意味がありません。

2.3 機能・制限の比較表

機能・制限比較	シングル版	マルチ版
ライセンスキー	シングル版専用ライセンス必要	マルチ版専用ライセンス必要
販売形態	評価版をご利用頂いてご要望に合っている場合は、誰でも購入可能です。	購入後にご迷惑をかけないように、環境や使用方法を事前にご確認させて頂いたうえで、販売させて頂きます。
製品価格	Ver1.x と同じ	シングル版の約 4 倍
対象ファイル	Excel/Word/PPT 一太郎、DocuWorks TIFF (G3・G4) JPEG/BMP/PNG/GIF	Excel/Word TIFF (G3・G4) JPEG/BMP/PNG/GIF
OCR 機能	使用可能	使用不可
同時稼動確認スレッド数	1 スレッドでしか動作しません	4 スレッドまでサポート
in→out 変換のサポート	有	無
コマンド変換サポート	有	無
プログラムインターフェース (Java/C) のサポート	有	有 (マルチ版は Java/C のみのサポートです)
ハードの制限	推奨環境	推奨環境 + 同時に起動させるスレッド数以上の CPU 数またはコア数が必須です。

3 インストールに必要な環境

本ドキュメントは、YSS PDF オートコンバータ EX のインストール手順と初期起動の方法について記述しています。

3.1 推奨ハードウェア環境

メモリ	2G 以上 (PDF オートコンバータ EX が自由に使用できるメモリ)
CPU	最低クロック数 2.0GHz 以上をお勧めします。 それ以下でも動作しますが、処理スピードはクロック数に 正比例します。可能であれば、3.0GHz以上推奨

CPU は高性能であるほど、スピードが上昇します。メモリは一定以上あってもそれ以上は影響しません。

- ◆ その他変換スピードに影響のあるもの
 - ハードディスクの回転数(高速ほど良い) (推奨 SAS 15,000 回転)
 - グラフィックボードの性能(画像が多いファイルの場合)

3.2 S/W 環境

3.2.1 OS

WindowsXP、Windows7

WindowsServer2003、WindowsServer2003R2、WindowsServer2008、WindowsServer2008R2
32bitOS、64bitOS に対応

(WindowsServer2012 につきましては、営業 eigyo@iothe.co.jp までお問い合わせください。)

3.2.2 動作確認アプリケーション

- ◆ 以下のファイルは該当製品のインストールが必要です。
 - Office
Excel2003、2007、2010 いずれも SP1 以上をインストール必須です。
Word2003、2007、2010 いずれも SP1 以上をインストール必須です。
PowerPoint2003、2007、2010 いずれも SP1 以上をインストール必須です。
(Office2013 につきましては、営業 eigyo@iothe.co.jp までお問い合わせください。)
 - 一太郎 2006、2007、2009、2010、2011 (サービス変換の場合は、制限があります。26pを参照ください。)
 - DocuWorks6.x、7.x
各製品は最新のバッチをあててください。
- 上記はサーバに必要な製品です。上記で読み込めるファイルは PDF 変換できます。
変換結果はサーバにインストールされているバージョンの印刷結果に依存しますので、
バージョン間での互換性には注意して、サーバにインストールするバージョンを決定ください。
- ◆ 以下のファイルは変換時に他のソフトウェアは不要です。
 - 画像ファイル TIFF (G3/G4)、JPEG (RGB)、BMP、GIF、PNG
- ◆ TEXT ファイル、Notepad.exe 等、右クリックして印刷の機能があるソフトは動作する可能性があります。
その場合は、該当ソフトのインストールが必要です。

インストール前に

3.3 設定・確認事項

3.3.1 必要な確認事項

インストール前に必ず設定・確認をしてください。

- PDF コンバータ Ver4.2.1 以上を必ずインストールしてください。PDF コンバータ Ver4.2.0 以下のバージョンでは動作しません。PDF コンバータのインストール方法は PDF コンバータインストールマニュアルを参照ください。
(PDF オートコンバータ EX には PDF コンバータ1 ライセンスが含まれています。)
- OS と Office の最新のパッチをインストールしてください。
- 必ずインストールするマシン自体にアドミニストレータ権限のあるユーザでログインしてください。ネットワークのアドミニストレータ権限があっても、そのマシン自体にその権限がないことも考えられます。
- PDF オートコンバータ EX がインストールされているサーバの Office のバージョンを変更したい場合、以下にご注意ください。(例 Office2003 を使用していたが Office2007 に変更する等)

●重要●必ず古い Office をアンインストールしてから、新しい Office をインストールしてください。

もし、そのままインストールして、マシン内に Office が 2 つある状態になってしまうと、その後古い Office をアンインストールしても、レジストリ等がおかしくなってしまう、正常に PDF 変換できなくなります。一度そうなると、OS を入れなおす必要が出てきますので、ご注意ください。(一度すべての Office をアンインストール+フォルダ削除+レジストリ削除すれば問題解消の余地はありますが、非常に難易度が高いのでお勧めできません)

必須手順 OS 再起動 → Office のアンインストール → OS 再起動 → 新しい Office のインストール

3.3.2 正常な動作をしない環境

以下の環境では正常に動作しませんのでご注意ください。

- PDF オートコンバータ EX を、Citrix XenApp 等のシンクライアント専用サーバにインストールすることは止めてください。クライアントが Citrix XenApp を使用しているだけで問題が起きる訳ではありません。PDF オートコンバータ EX のインストールしているサーバと、シンクライアント(Citrix XenApp)専用サーバが別のサーバであれば、問題ありません。
- リモートデスクトップや、それに類似した製品での PDF オートコンバータ EX インストールサーバへのアクセスに関しては、メンテナンス用にまれにアクセスするのであれば、問題ありません。常時アクセスは止めてください。
- ハイパースレッティングが設定されているマシンはサポートしません。

3.3.3 不安定な動作となる可能性のある環境

以下の環境では、不安定となる場合があります。必ず事前に検証または、対応策をお考えください。

- Web サーバ、DB サーバと PDF オートコンバータ EX を同じサーバにインストールする場合。
特に変換頻度が高い場合はご注意ください。相互に影響が出た場合でも、当社では対応が困難です。
ご心配の場合は必ず変換専用マシンをご用意ください。

3.3.4 注意事項

- PDF 変換を行うファイル、フォルダについては、必ず PDF オートコンバータ EX がインストールされているローカルサーバ内のものをご指定願います。ネットワーク越しのファイル、フォルダの処理については動作の安定性を考慮し、サポート外とさせていただきます。

- 一太郎はインストール時、IME と ATOK が悪影響を及ぼす場合もありますので、必ず一太郎変換専用サーバとしてご使用頂くことを推奨いたします。
- Excel のマルチシートファイルにおいて、ヘッダーやフッターの設定でシートにまたがる総合計のページ番号を付与する機能は標準サポートしていません。シートごとのページ数でページ番号が付与されますのでご注意ください。詳細は営業までお問合せください。
- ウイルスソフトによっては、変換時にファイルを掴むものがあり、変換用フォルダをウイルスチェックから外していただく必要があるケースもあります。
- 当社製品にメモリークがないことは確認しておりますが、Windows のアプリケーション (Office 等) は、少しずつごみのようなものができてメモリーク (使用) していきます。変換頻度によりますが、1 日 1 回、最低でも 1 週間に 1 回はマシンの再起動を推奨いたします。
- コマンド変換ではアドミニストレータ権限が必要です。
- 異なる変換方法 (サービス/ コマンド/ Java/ C) を同時に動作させることはサポートしません。

3.3.5 PDF オートコンバータ EX を 64bitOS 上で動作させる場合の注意事項

PDF オートコンバータ EX を 64bitOS 上で動作させる場合、以下の制限があります。

- ◆ 以下の製品の 64bit 版が必要です。
 - PDF オートコンバータ EX (64bit版)
 - PDFコンバータXP (64bit版)
- ◆ OS が 64bit版である必要があります。
- ◆ プログラムインターフェース (Java) を使用する場合、JDKが 64bit版である必要があります。
- ◆ 変換アプリケーションが完全に 64bit版ネイティブであるものを推奨します。64bitで動くようにした 32bit版では WOW64 上で動作することになるためリスクが増加する (WOW64 が不安点になる) 可能性があります。
- Office2010 64bit版で動かすことが推奨です。64bit 環境でも Office2010 をデフォルトでインストールすると 32bit でインストールされてしまいます。特別なインストール方法が必要です。(マイクロソフトサイトに掲載されていますのでご覧ください)
- Office2010 には SP1 以上の適用が必要です。未適用の状態では正常に動作しません。DocuWorks、一太郎等は、アプリケーションが 32bit互換 (wow64) で動作します。当社製品側で 32bit 互換でも動作するように対応しておりますが、wow64 の仕様・制限に依存します。これは当社製品以外でも同様です。

4 インストール手順

4.1 PDF コンバータのインストール

- PDF オートコンバータ EX のインストール前に必ず PDF コンバータをインストールしてください。
PDF コンバータ Ver4.2.1 以上を必ずインストールしてください。
PDF コンバータ Ver4.2.0 以下のバージョンでは動作しません。
過去のバージョンからのバージョンアップの際はご注意ください。
- 以下は PDF コンバータ Ver4.2.1 以上がインストール済みであることを前提として説明しております。

4.2 PDF オートコンバータ EX のインストール

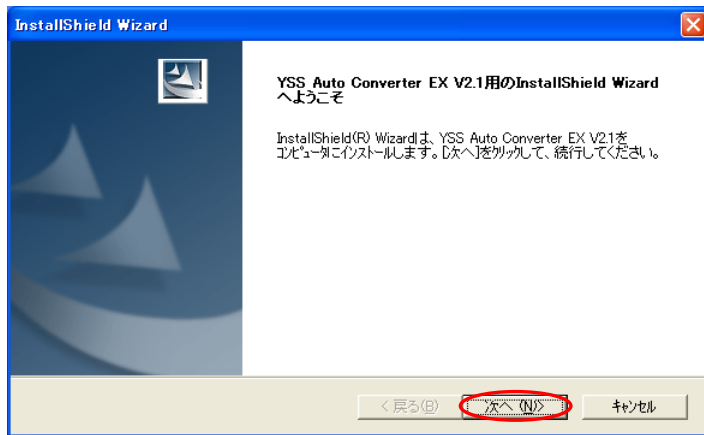
4.2.1 32bit 版の場合

WindowsXP に PDF オートコンバータ EX Ver2.X(yautoex21.exe)をインストールした例でご説明します。
(X はバージョン番号を表しております。)

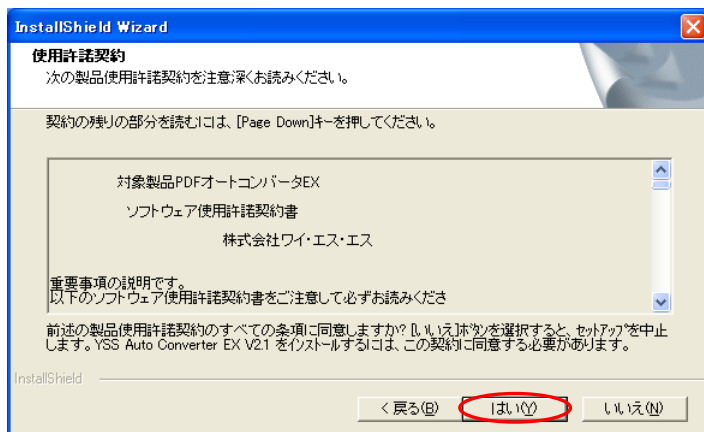
PDF オートコンバータ EX の実行モジュールを(yautoexXXX.exe:XXX はバージョン番号)をマシン上に保存してください。

(1)yautoex2XX.exe をダブルクリックしてください。

この画面が表示されます。「次へ」ボタンをクリックしてください。

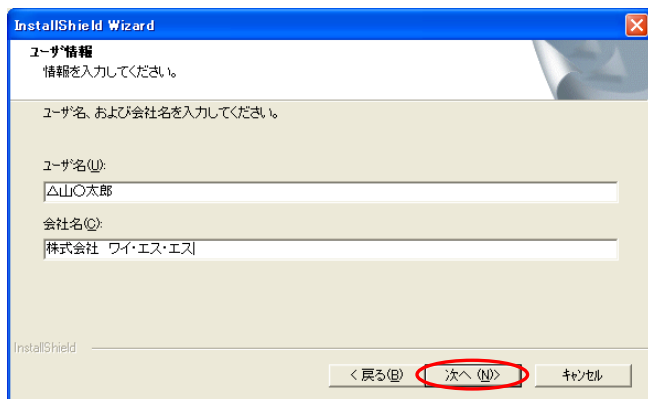


(2)この画面が表示されます。「はい」ボタンをクリックしてください。



(3)この画面が表示されます。

「ユーザ名」、「会社名」を入力して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

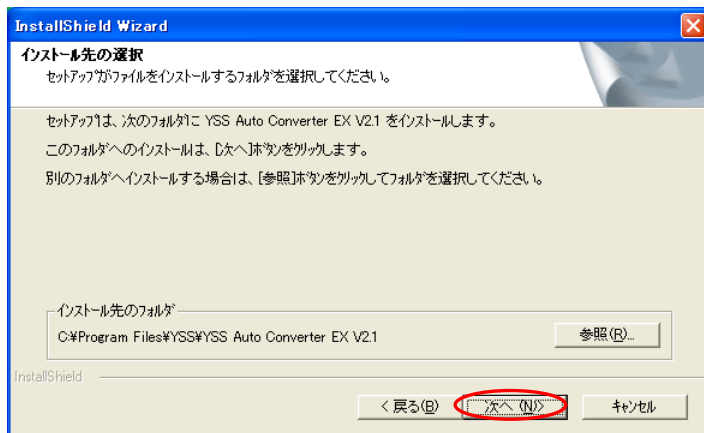


(4)この画面が表示されます。

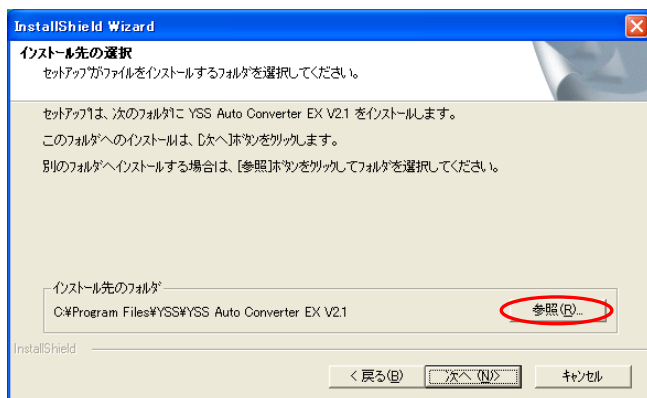
インストール先を確認し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

クリックすると(5)の画面が表示されます。

(インストール先のフォルダを変更する場合、「4-1」をご参照ください。)

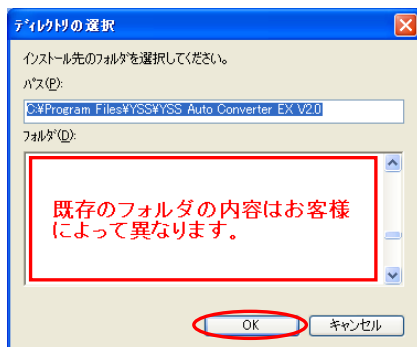


4-1 インストール先のフォルダを変更する場合は「参照」ボタンをクリックしてください。



4-2 この画面が表示されます。

インストール先を指定し、「OK」ボタンをクリックしてください。
クリックすると(4)の画面が表示されます。

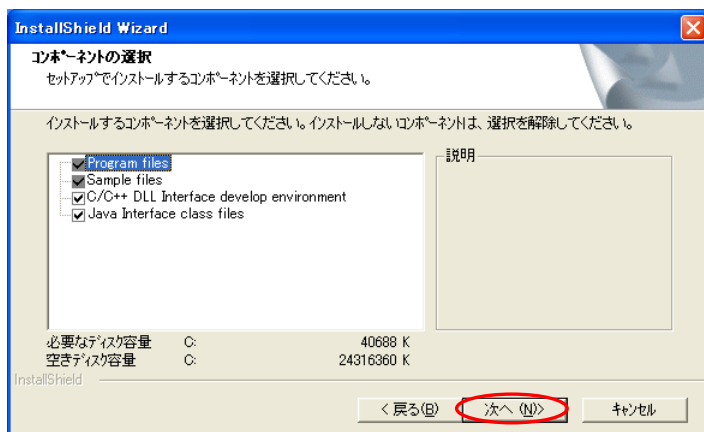


注意

Server 2008 / Vista / 7 などはセキュリティが強化されているため、Program Files 以下にインストールしないようにしてください。他のフォルダにインストールするようにしてください。

(5)この画面が表示されます。

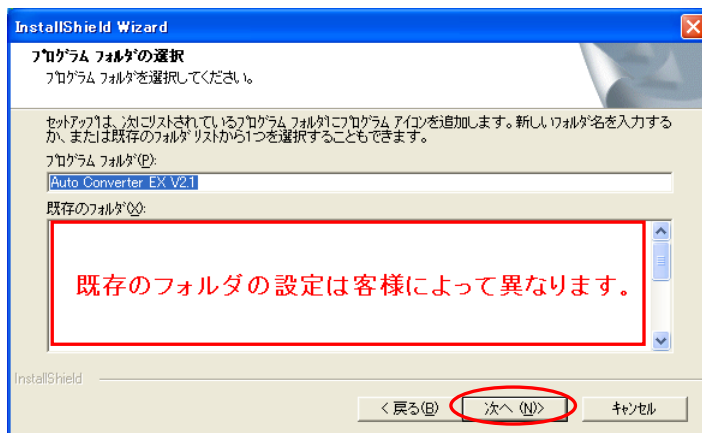
インストールするコンポーネントを選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。
(初期設定の状態ですべてのコンポーネントが選択されています。)



(6)この画面が表示されます。

プログラムフォルダを確認し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

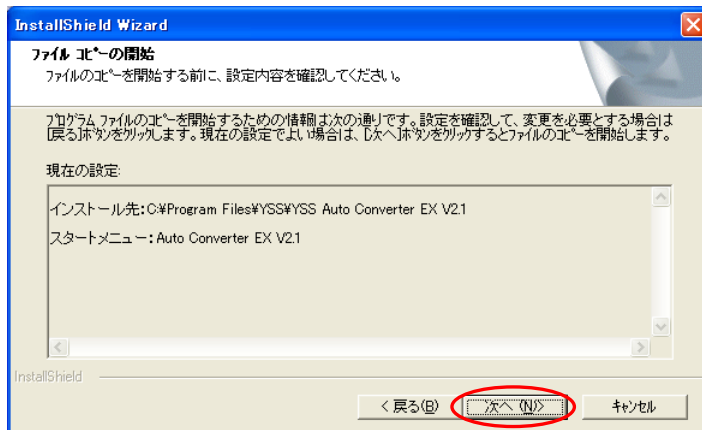
(プログラムフォルダ名を変更する場合は、名称を入力または既存のフォルダリストから選択し、設定してください。)



(7)この画面が表示されます。

内容を確認して「次へ」ボタンをクリックしてください。

インストールが開始されます。



(8)この画面が表示されます。それぞれにライセンスシートに記載のライセンス番号を入力してください。

オートコンバータ EX ライセンス番号に正しい番号を入力すると、入力フィールド右の「無効」表示部分が「有効」になり、「OK」ボタンがクリックできるようになります。

※EX を使用してイメージ変換 OCR・プログラムインターフェースを使用しない場合、オートコンバータ EX ライセンス番号だけにライセンス番号を入力してください。

(プログラムインターフェースを使用する場合、「8-1」、「8-2」、「8-3」の該当する項をご参照ください。
体験版・シングル版・マルチ版のライセンス番号のそれぞれで画面の表示・操作が若干異なります。)

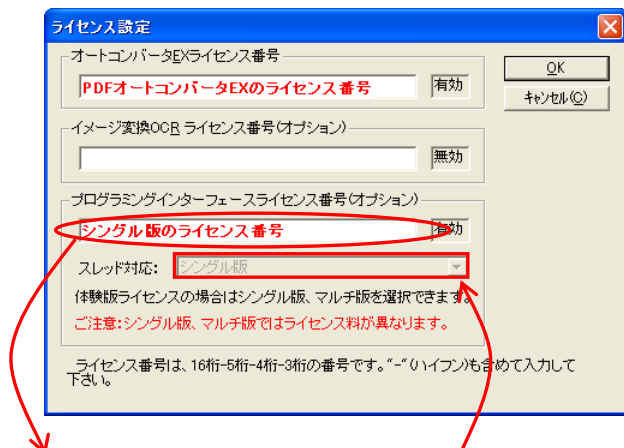
8-1 体験版のライセンス番号を入力する場合

体験版のライセンス番号を入力すると、スレッド対応のリストボックスからシングル版・マルチ版を選択できます。

但し、マルチ版は「1. シングル版とマルチ版について(重要)」に記載されている制限があります。

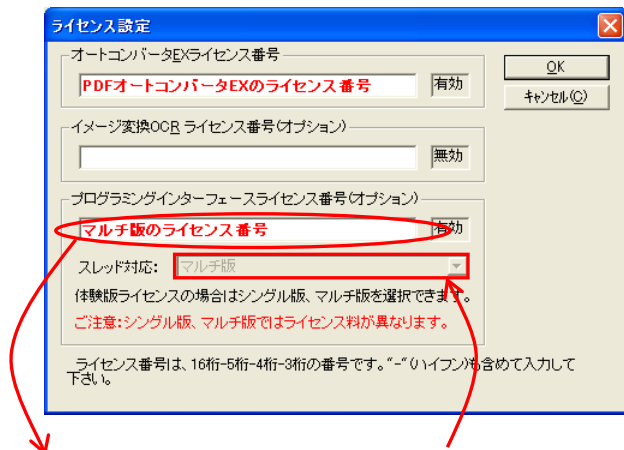
購入後に期待していた性能を発揮出来ない等のご迷惑を掛けないために、制限をご理解頂いて当社にメールを送信して頂いた方以外は、マルチ版を選択しないでください。

8-2 シングル版の正規ライセンス番号を入力した場合



シングル版のライセンス番号を入力すると、スレッド対応のリストボックスが選択できなくなります。リストボックスはグレーダウンしていますが、グレーの文字でシングル版と表示されます。

8-3 マルチ版の正規ライセンス番号を入力した場合



マルチ版のライセンス番号を入力すると、スレッド対応のリストボックスが選択できなくなります。リストボックスはグレーダウンしていますが、グレーの文字でマルチ版と表示されます。

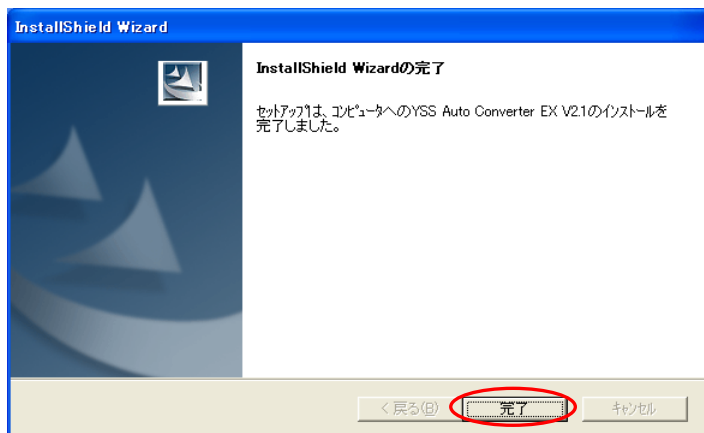
注意

見積依頼の際にはシングル版・マルチ版、どちらのお見積りが必要かを必ずお知らせください。

(9)設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。

(10)この画面が表示されます。

「完了」ボタンをクリックすれば、インストールは完了です。



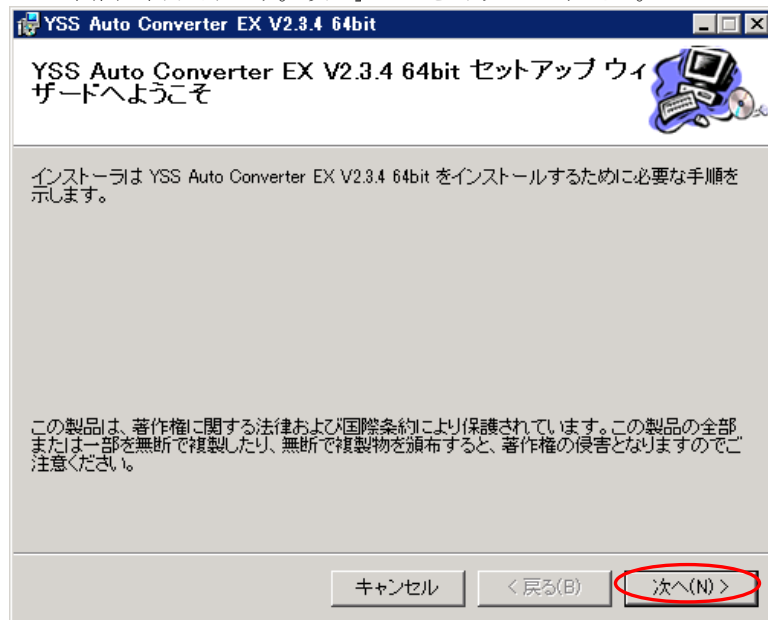
4.2.2 64bit 版の場合

WindowsServer2008R2 に PDF オートコンバータ EX Ver2.X.X(yautoex64.234.msi)をインストールした例で説明します。
(X はバージョン番号を表しております。)

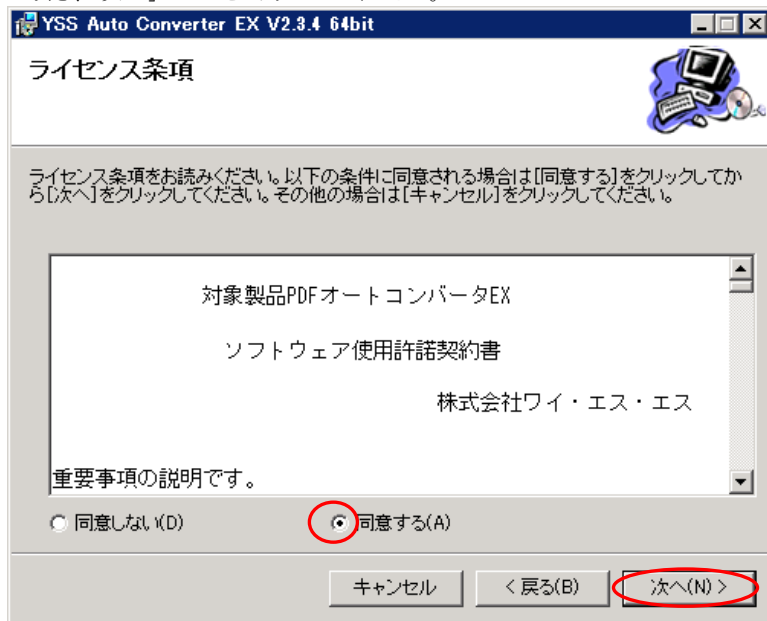
PDF オートコンバータ EX の実行モジュールを(yautoex64.XXX.msi:XXX はバージョン番号)をマシン上に保存してください。

(1)yautoex64.2XX.msi をダブルクリックしてください。

この画面が表示されます。「次へ」ボタンをクリックしてください。



(2)この画面が表示されます。ソフトウェア使用許諾契約書をお読み頂き、丸で囲まれた「同意する」にチェックを入れて頂き、「次へ」ボタンをクリックしてください。

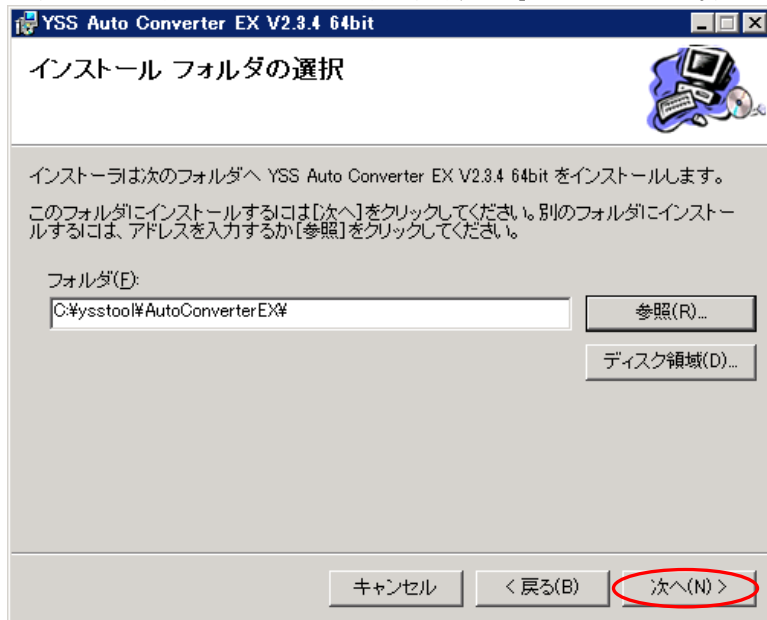


(3)この画面が表示されます。

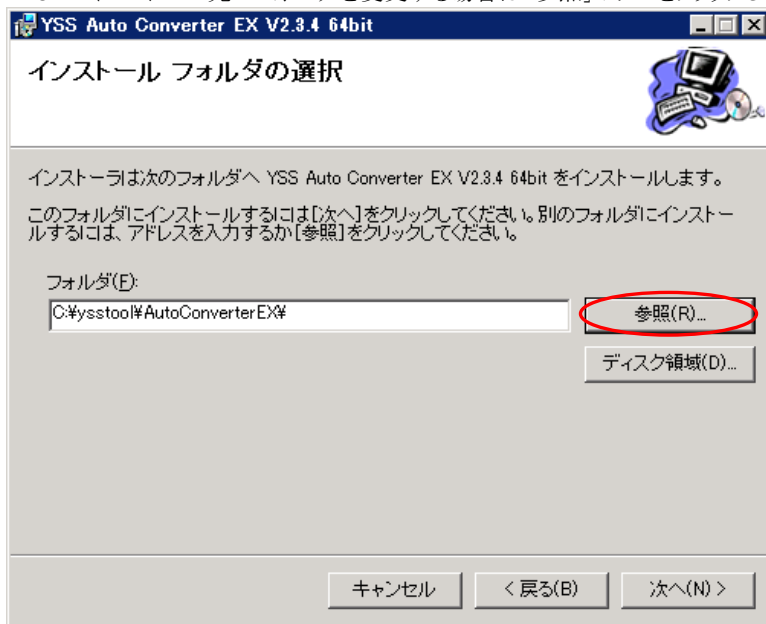
インストール先を確認し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

クリックすると(4)の画面が表示されます。

(インストール先のフォルダを変更する場合、「3-1」をご参照ください。)



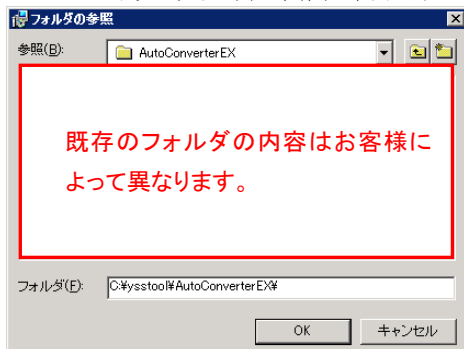
3-1 インストール先のフォルダを変更する場合は「参照」ボタンをクリックしてください。



3-2 この画面が表示されます。

インストール先を指定し、「OK」ボタンをクリックしてください。

クリックすると(4)の画面が表示されます。

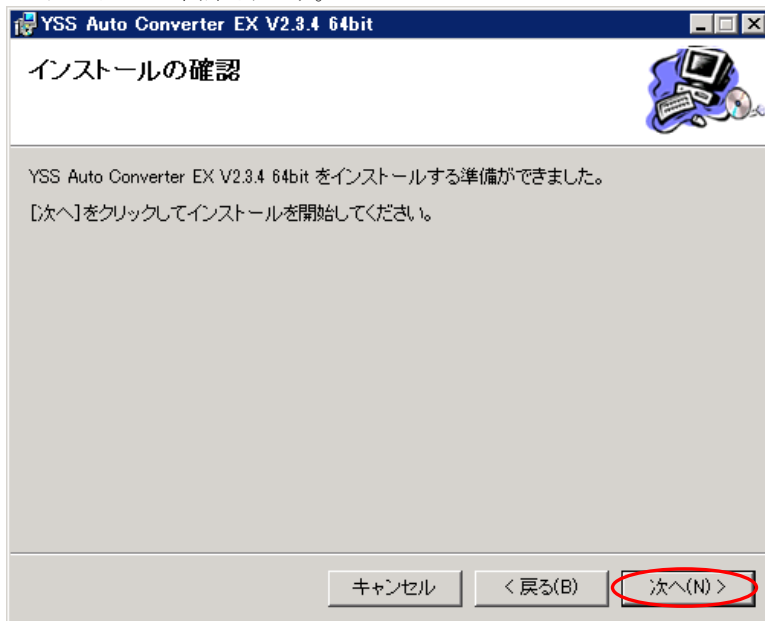


注意

Server 2008 / Vista / 7 などはセキュリティが強化されているため、Program Files 以下にインストールしないようにしてください。他のフォルダにインストールするようにしてください。

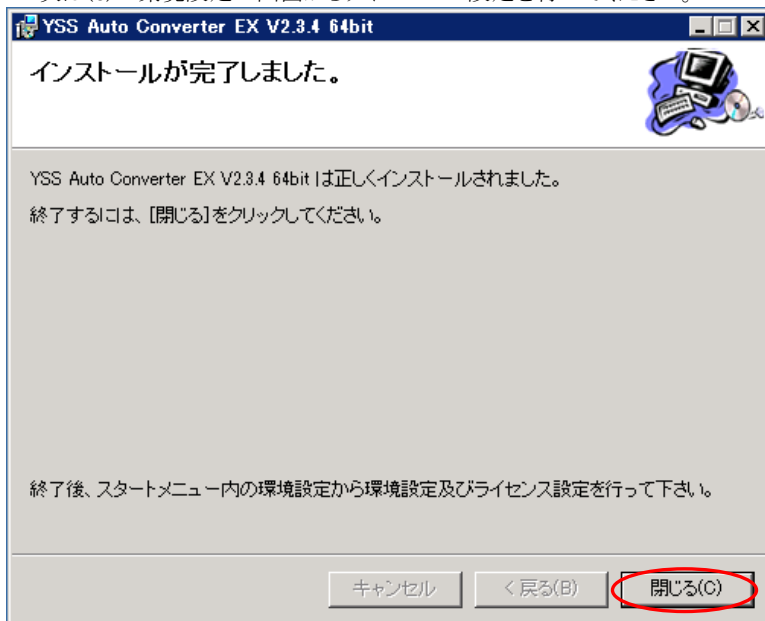
(4)この画面が表示されます。「次へ」ボタンをクリックしてください。

インストールが開始されます。



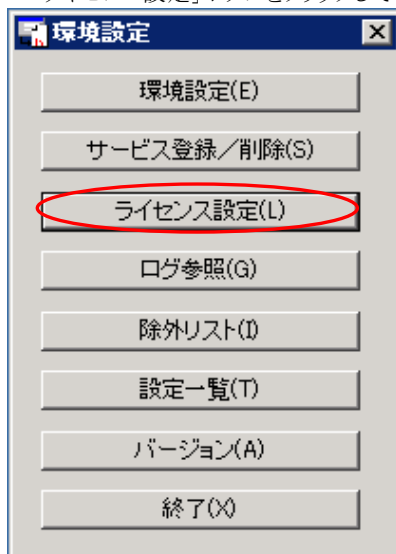
(5)この画面が表示されます。「閉じる」ボタンをクリックすればインストールは完了です。

次は(6)の環境設定の画面からライセンスの設定を行ってください。



(6)インストールが完了するとデスクトップにこの画面が表示されます。

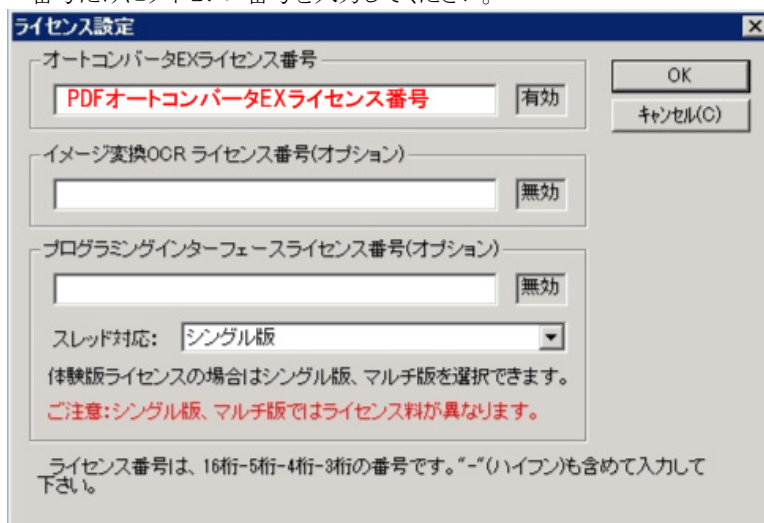
「ライセンス設定」ボタンをクリックしてください。



(7)この画面が表示されます。それぞれにライセンスシートに記載のライセンス番号を入力してください。

オートコンバータ EX ライセンス番号に正しい番号を入力すると、入力フィールド右の「無効」表示部分が「有効」になり、「OK」ボタンがクリックできるようになります。

※EX を使用してイメージ変換 OCR・プログラムインターフェースを使用しない場合、オートコンバータ EX ライセンス番号だけにライセンス番号を入力してください。



(プログラムインターフェースを使用する場合、「7-1」、「7-2」、「7-3」の該当する項をご参照ください。
体験版・シングル版・マルチ版のライセンス番号のそれぞれで画面の表示・操作が若干異なります。)

7-1 体験版のライセンス番号を入力する場合

体験版のライセンス番号を入力すると、スレッド対応のリストボックスからシングル版・マルチ版を選択できます。

但し、マルチ版は「1. シングル版とマルチ版について(重要)」に記載されている制限があります。

購入後に期待していた性能を発揮出来ない等のご迷惑をかけたために、制限をご理解頂いて当社にメールを送信して頂いた方以外は、マルチ版を選択しないでください。

7-2 シングル版の正規ライセンス番号を入力した場合

シングル版のライセンス番号を入力すると、スレッド対応のリストボックスが選択できなくなります。

リストボックスはグレーダウンしていますが、グレーの文字でシングル版と表示されます。

7-3 マルチ版の正規ライセンス番号を入力した場合

ライセンス設定

オートコンバータEXライセンス番号
PDFオートコンバータEXのライセンス番号 有効

イメージ変換OCR ライセンス番号(オプション)
無効

プログラミングインターフェースライセンス番号(オプション)
マルチ版のライセンス番号 有効

スレッド対応: マルチ版

体験版ライセンスの場合はシングル版、マルチ版を選択できます。
ご注意:シングル版、マルチ版ではライセンス料が異なります。

ライセンス番号は、16桁-5桁-4桁-3桁の番号です。"-"(ハイフン)も含めて入力して下さい。

OK
キャンセル(C)

マルチ版のライセンス番号を入力すると、スレッド対応のリストボックスが選択できなくなります。
リストボックスはグレーダウンしていますが、グレーの文字でマルチ版と表示されます。

注意

見積依頼の際にはシングル版・マルチ版、どちらのお見積りが必要かを必ずお知らせください。

- (8) 設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。
ライセンスの設定は以上で完了です。

5 【重要】WindowsServer2008/Vista/Windows7 における必須の設定

WindowsServer2008/Vista/Windows7 においてセキュリティが強化されています。このため以下の設定が必要になります。

5.1 発生する問題

MS-Office ファイルを PDF 変換する際に、「611」というエラーになるケースがあります。

5.2 発生条件

上記の OS の環境において以下の条件の両方に該当する場合に変換が出来ません。

条件 1 Excel の PDF 変換である。

条件 2 プログラムのキックがサービス起動で行われ、変換処理が画面に表示されずに行われる場合。

以下のような場合が該当します。

- ① PDF オートコンバータ EX のサービスによるフォルダ監視変換
- ② プログラムインターフェース (Java/C) を利用して、サービスから呼び出される場合、
具体的には Web サーバ/AP サーバ (Tomcat/WebSphere/IIS 等) から呼び出されるような場合

条件 1 と条件 2 の両方が一致した際に、Excel を変換すると 611 のエラーになります。

両方の条件が無い場合の 611 エラーは別の原因 (Office のパッチが最新でない等) になりますので、ご注意ください。

また、この現象に合致する場合、すべての Excel ファイルが「611 エラー」になります。あるファイルだけエラーになる場合は、他に原因がありますので、お問い合わせください。また、この設定は同じサーバで Excel のマクロ等の別ソフトやアプリを動かすことに悪影響を及ぼすケースもあります。

5.3 必要な設定1 (32bit で 32bit アプリを PDF 変換する場合)

OS が 32bit 環境で Office を 32bit で使用する場合、以下の設定が必要です。

32bit 環境下で Office2010 32bit 版を動作させる場合

C:\¥Windows¥System32¥config¥systemprofile¥Desktop

フォルダを新規作成してください。

5.4 必要な設定 2(64bit で 32bit アプリを PDF 変換する場合)

OS が 64bit 環境で Office を 32bit で使用する場合、以下の設定が必要です。

64bit 環境下で Office2010 32bit 版を動作させる場合

C:\Windows\SysWOW64\config\systemprofile\Desktop

フォルダを新規作成してください。

5.5 必要な設定 3(64bit で 64bit アプリを PDF 変換する場合)

OS が 64bit 環境で Office を 64bit で使用する場合、以下の設定が必要です。

64bit 環境下で Office2010 64bit 版を動作させる場合

C:\Windows\System32\config\systemprofile\Desktop

フォルダを新規作成してください。

5.6 上記(5.3 または 5.4、5.5)を設定しても、「611」というエラーになる場合

5.6.1 Excel だけエラーになる場合

5.3 または 5.4、5.5 を設定しても Excel だけがエラーになる場合、以下を確認してください。

AP サーバ(Tomcat 等)の起動ユーザまたはサービスの起動ユーザで、マシンにログインしてください。

Excel は一度もログインしたことが無いユーザはプリンタドライバを使用することが出来ません。このため、

AP サーバ(Tomcat 等)の起動ユーザまたはサービスの起動ユーザで一度ログインをすることで、

問題が解消することがあります。

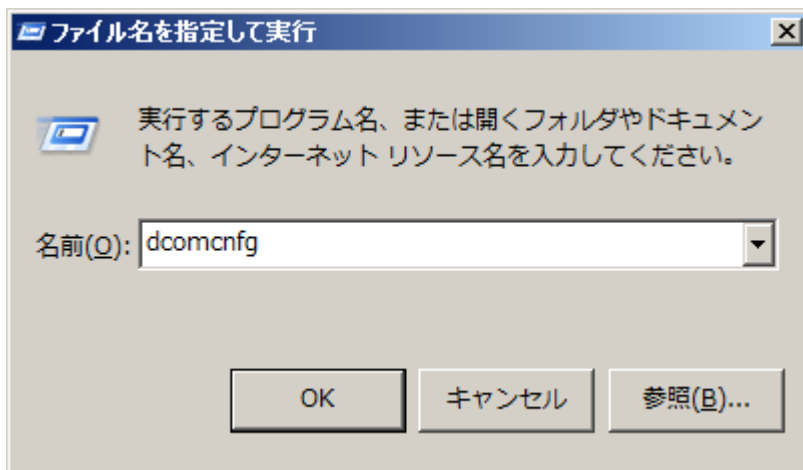
5.6.2 それでも問題が解消しない場合

5.3 や 5.4、5.5 や 5.6.1 をすべて試しても、問題が解決しない場合、以下のいずれかを検討ください。

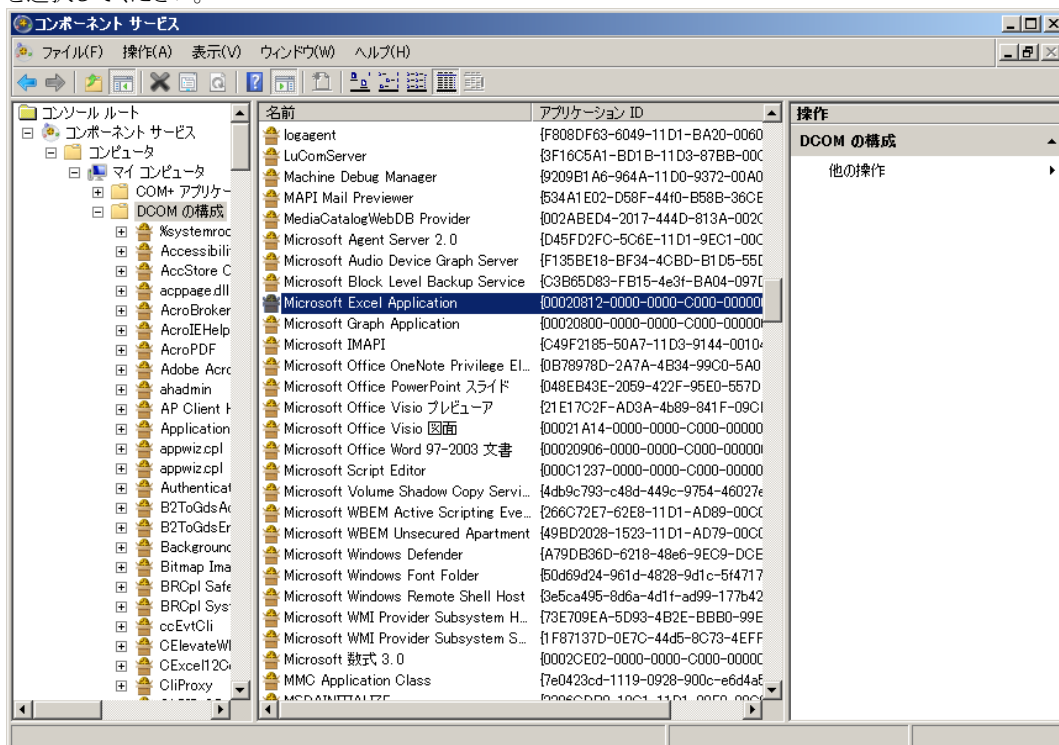
- 次のページ以降で説明されている DCOM の設定を試してみる。
- YSS のサポートページに問い合わせをして頂く。

5.6.3 フォルダを作成しても解決しない場合の回避方法

スタートメニューから「検索の開始」または「ファイル名を指定して実行」から、dcomcnfg を入力して OK を押してください。
以下は Excel の場合の回避方法です。Word/Powerpoint も同様の設定をお願いいたします。



コンソール ルート → コンポーネントサービス → コンピュータ → マイコンピュータ → DCOM の構成 → MicrosoftExcelApplication → プロパティ
を選択してください。



以下に「そのマシンのアドミニストレータ権限のあるユーザ」を入力してください。

The screenshot shows the 'Microsoft Excel Applicationのプロパティ' dialog box with the 'セキュリティ' (Security) tab selected. The question 'このアプリケーションの実行にどのユーザー アカウントを使用しますか?' (Which user account do you want to use for running this application?) is at the top. There are four radio button options: '対話ユーザー(D)' (Interactive user), '起動したユーザー(L)' (Logged-on user), 'このユーザー(U)' (This user), and 'システム アカウント (サービスのみ)(S)' (System account (services only)). The 'このユーザー(U)' option is selected. Below it are three text input fields: 'ユーザー(E):' (User), 'パスワード(P):' (Password), and 'パスワードの確認入力(N):' (Confirm password). A '参照(B)...' (Reference...) button is to the right of the user field. A red box highlights the user, password, and confirm password fields. At the bottom, there are 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and '適用(A)' (Apply) buttons. A link 'プロパティの設定の詳細を表示します。' (Show details of property settings) is also present.

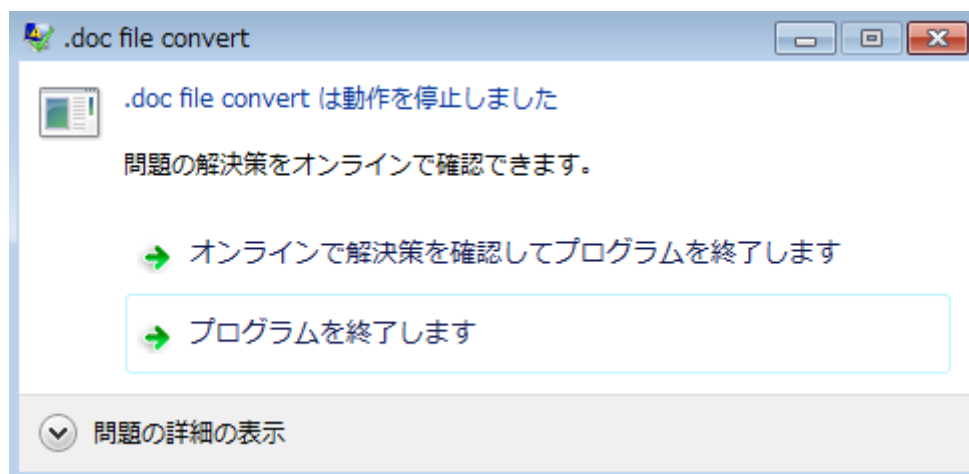
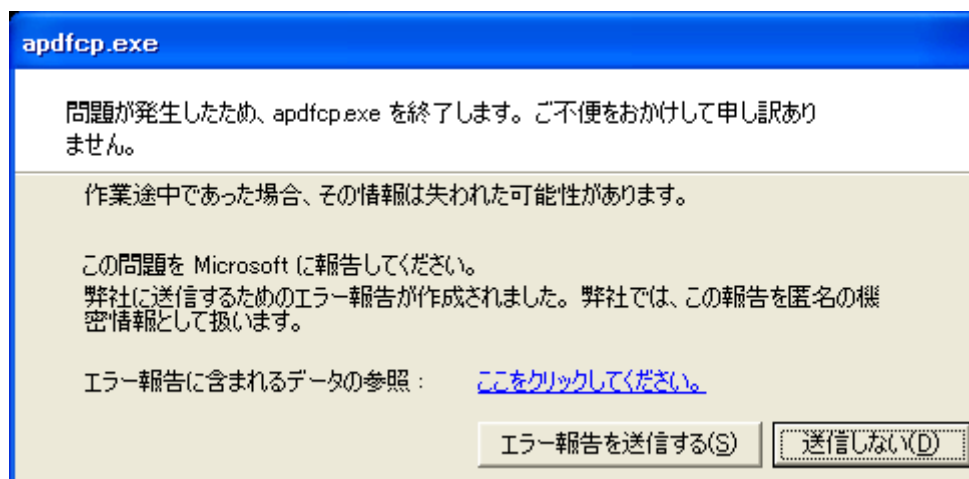
上記設定をすることにより、そのサーバで Excel を起動する際には、必ず上記設定ユーザとして起動されるようになります。同じサーバにて PDF オートコンバータ EX 以外のアプリやシステムで Excel を操作するマクロ等を動かす場合には問題が起きる可能性があります。基本的には別サーバで処理してください。

また、システム管理者に上記の設定をしても良いか確認をお願いします。

上記の設定でもうまく動作しない場合や、問題点があるようであれば、当社までお問い合わせください。

6 共通で設定が必須の事項

OS の設定等で、設定したほうが円滑に処理できる項目があります。
タイムアウト等のエラーが発生した場合、まれに以下のようなダイアログが表示されることがあります。
このダイアログはその後の円滑な変換の障害になるケースがあるので、出ないように以下の設定をしてください。



6.1 エラー時のダイアログ抑止(WindowsXP / Server 2003 の場合)

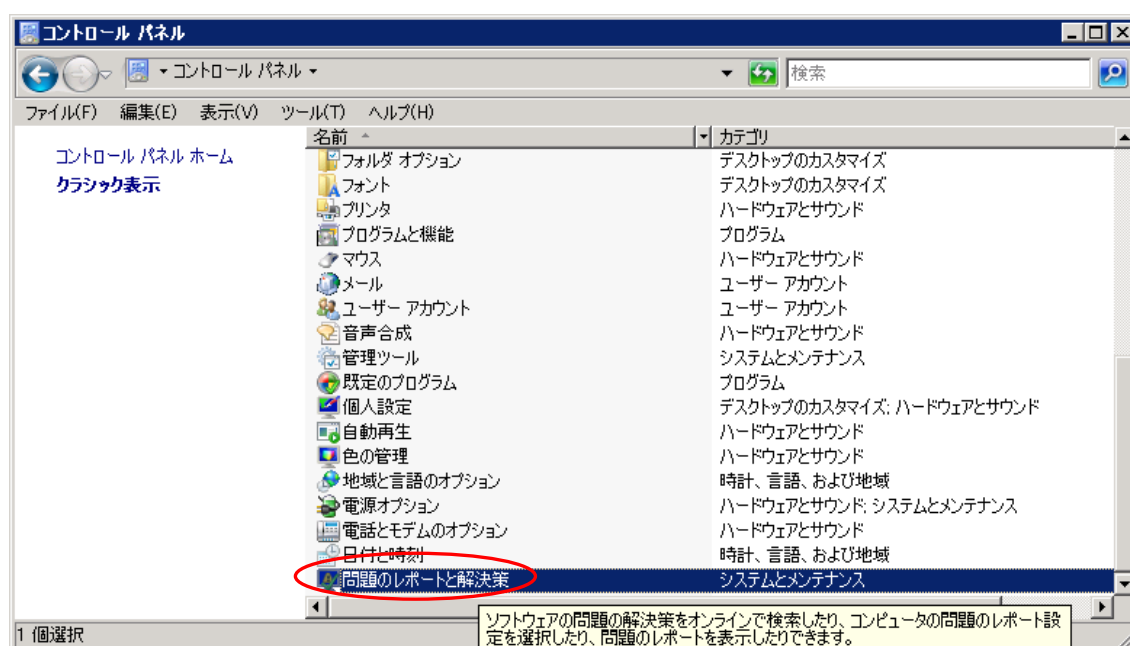
[コントロールパネル]→[システム]→[詳細設定]→[エラー報告]→[エラー報告を無効にする]を On にする
「重大なエラーが発生した場合に通知する」のチェックを外した状態にする。
を設定してください。

6.2 エラー時のダイアログ抑止(P.6 にない環境 / 7 / Server2008 の場合)

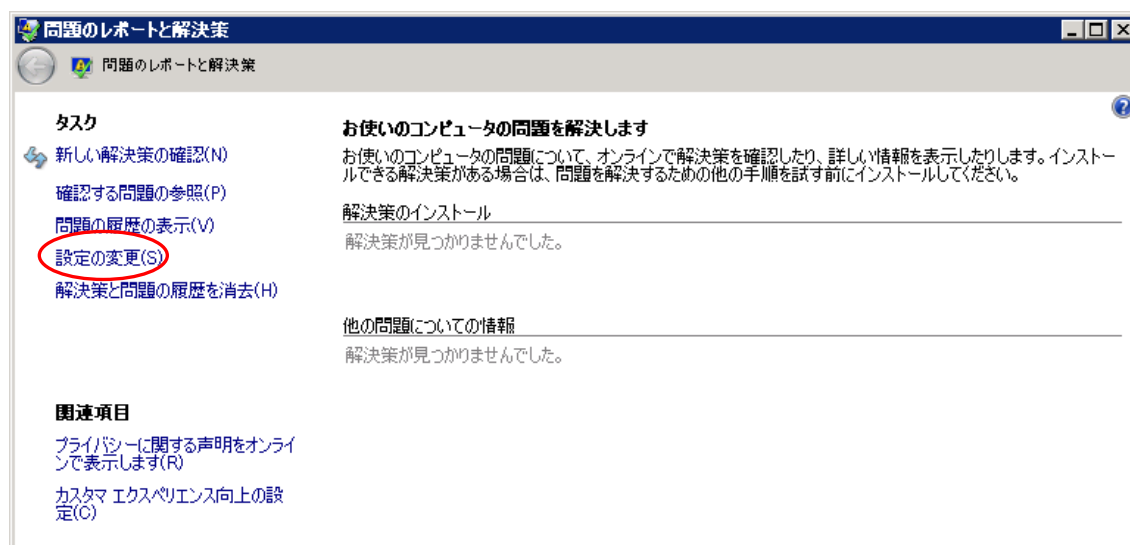
6.2.1 Windows Server 2008 のエラー報告ダイアログを無効にする方法 1

Windows XP 以降、アプリケーションを利用している際にエラーが発生すると、[Windows エラー報告]ダイアログが表示される場合があります。これは何らかの理由により、致命的なエラーが発生したときに表示されるもので、通常はアプリケーションを強制終了させるしかありません。それを回避するため、[Windows エラー報告]ダイアログを表示させなくする方法を以下ご説明いたします。

スタート→コントロールパネルを選択してください。クラシック表示を押して表示を切り替えると以下の画面になります。(既にクラシック表示になっている場合は不要です。)

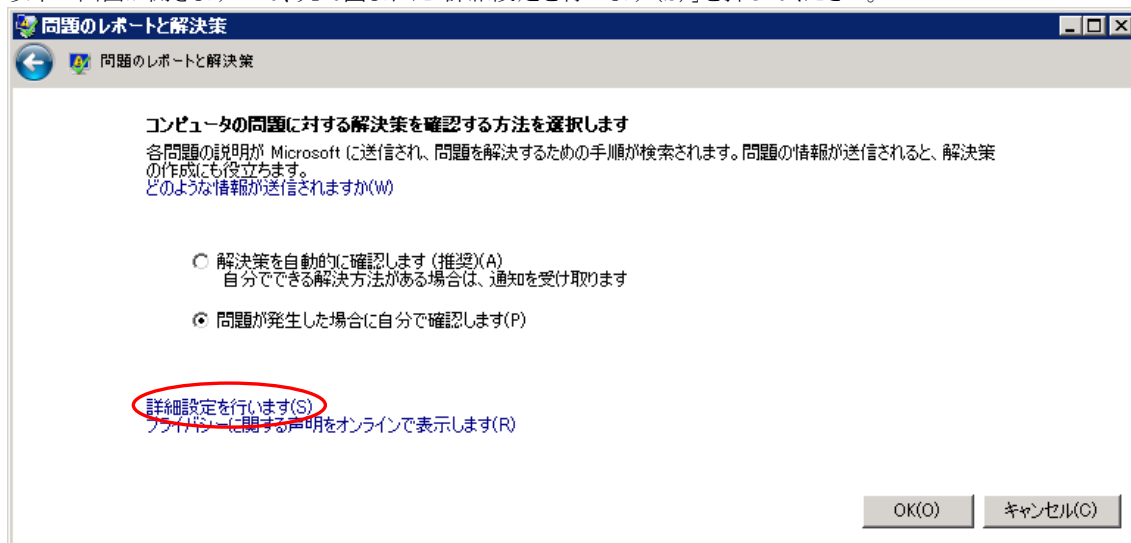


名前欄の丸で囲まれた「問題のレポートと解決策」を選択すると、次の画面が開きます。



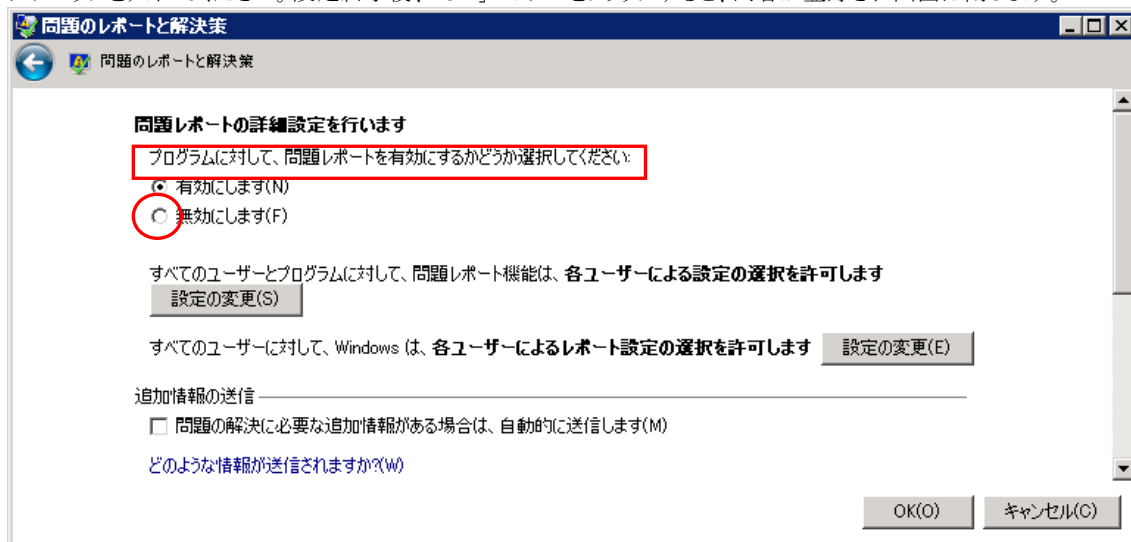
丸で囲まれた「設定の変更」を押してください。

以下の画面が開きますので、丸で囲まれた「詳細設定を行います(S)」を押してください。



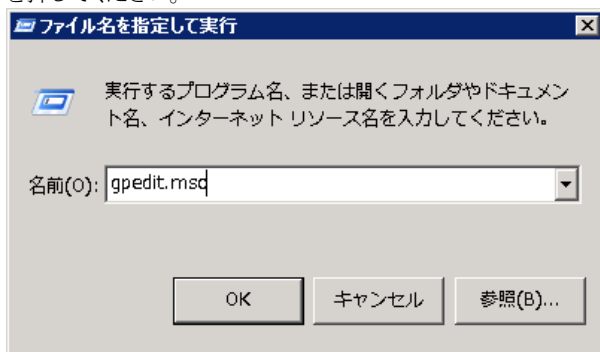
問題レポートの詳細設定を行う画面が開きます。

四角で囲まれた「プログラムに対して、問題レポートを有効にするかどうか選択してください」の欄の「無効にします(F)」にチェックを入れてください。設定終了後、「OK」 ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じます。



6.2.2 Windows Server 2008 のエラー報告ダイアログを無効にする方法 2

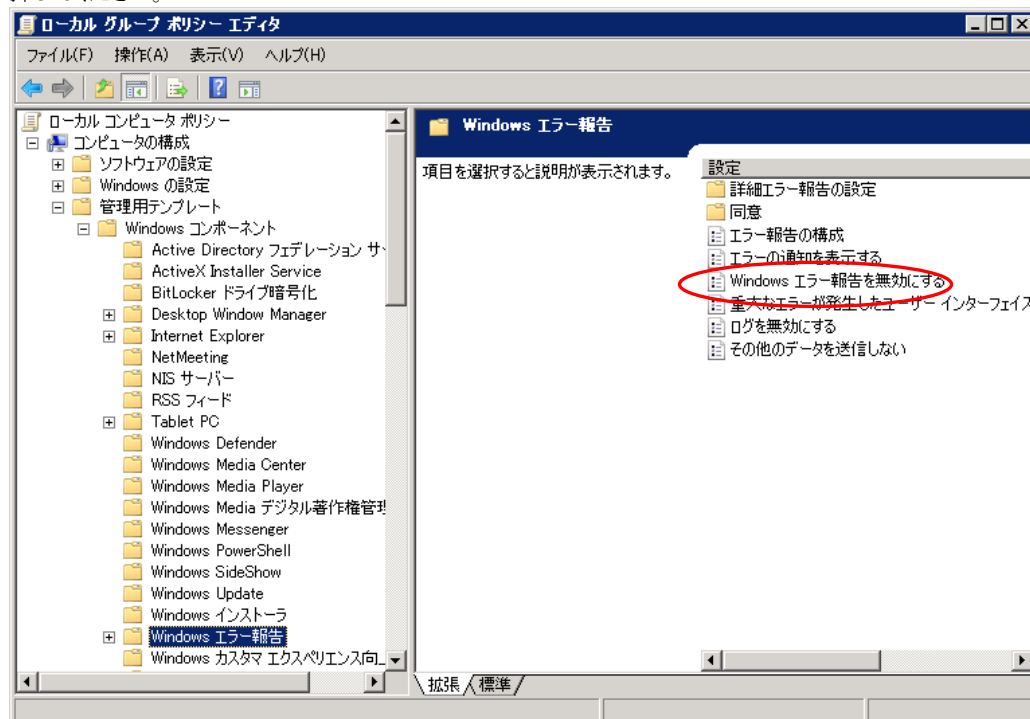
スタート→ファイル名を指定して実行を選択してください。以下の画面が出ますので、gpedit.msc と入力して「OK」を押してください。



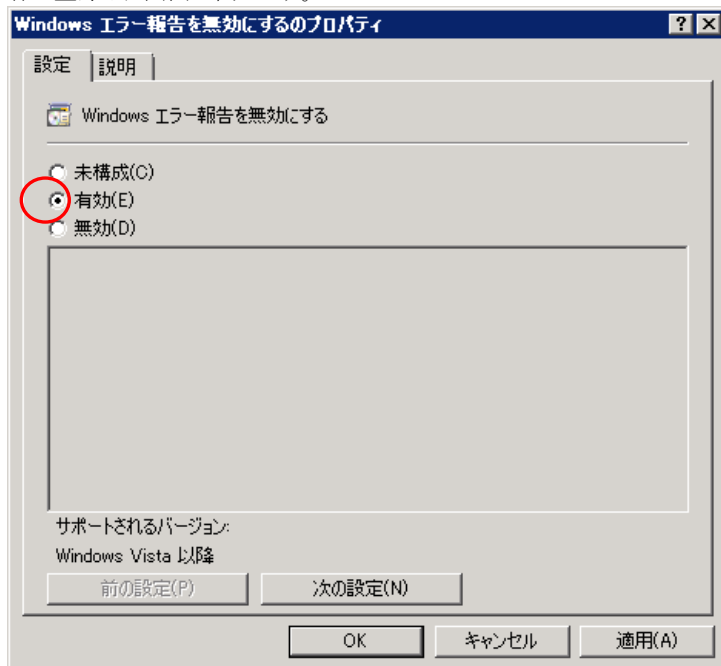
※変更を許可しますかといったダイアログが出る場合がありますが、「OK」を押してください。

ローカルグループポリシーエディタが起動されますので、以下の手順を実行してください。

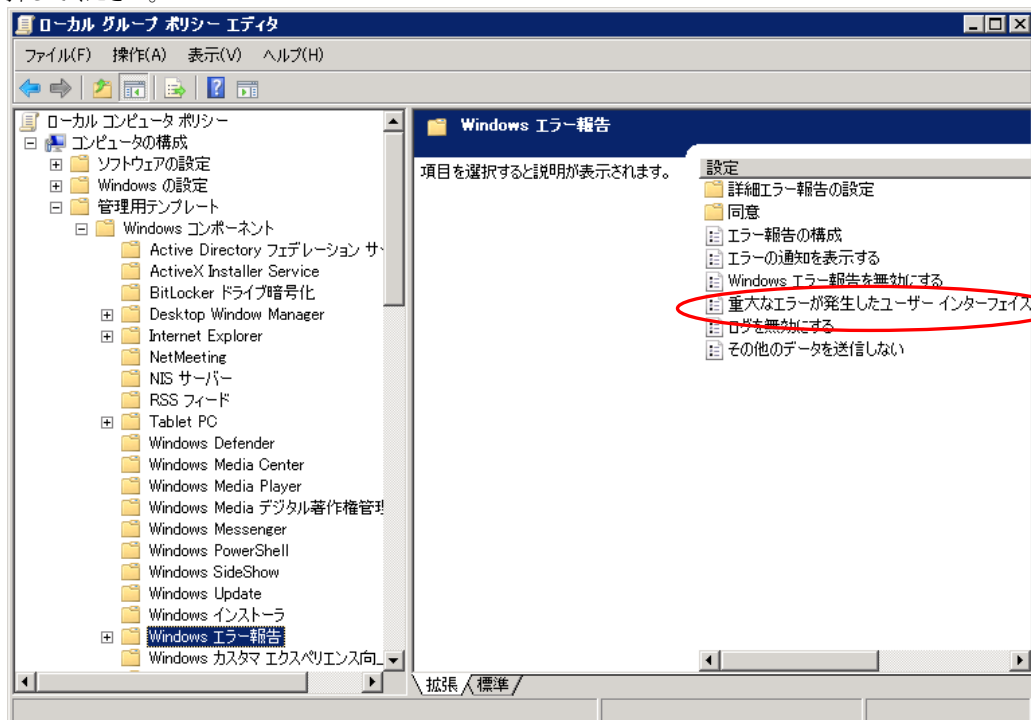
ローカルコンピュータポリシー → コンピュータの構成 → 管理用テンプレート → Windows コンポーネント → Windows エラー報告 を選択すると以下の画面になります。丸で囲まれた「Windows エラー報告を無効にする」を押してください。



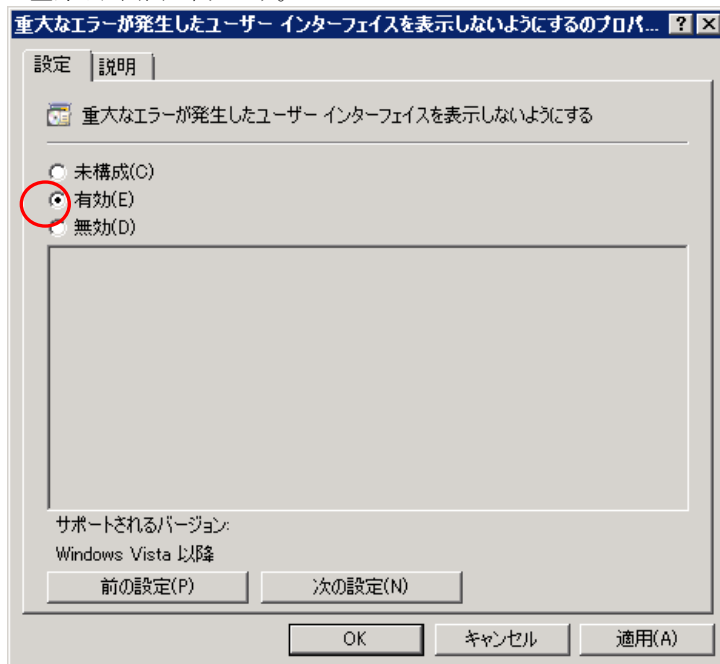
以下の画面になりますので、「有効(E)」にチェックを入れてください。設定終了後、「OK」 ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じます。



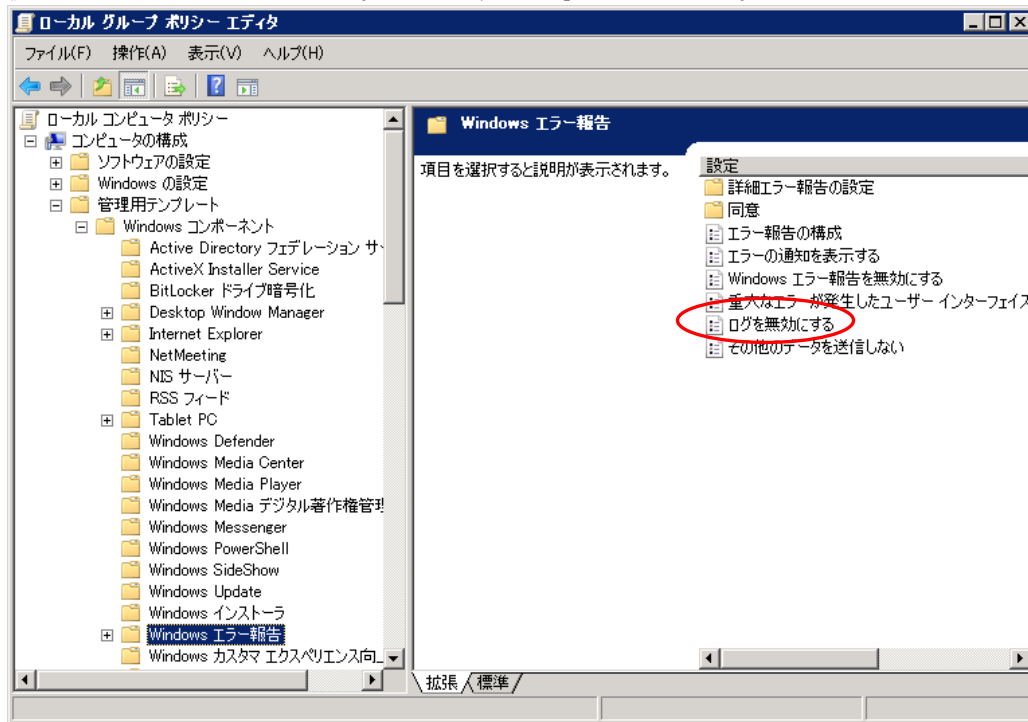
続いて以下の設定を行ってください。「重大なエラーが発生したユーザーインターフェイスを表示しないようにする」を押してください。



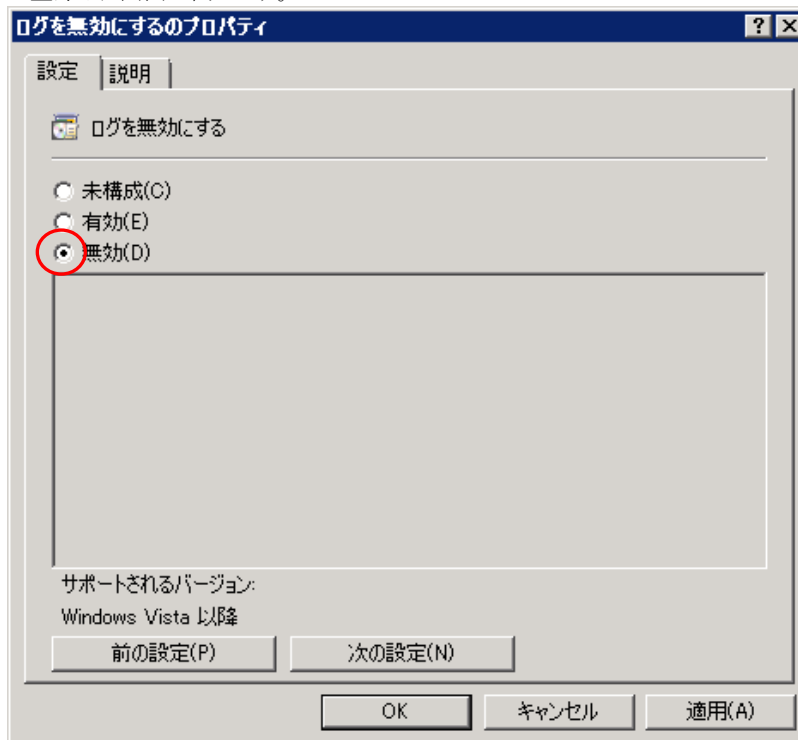
以下の画面になりますので「有効(E)」にチェックを入れてください。設定終了後、「OK」 ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じます。



続いて以下の設定を行ってください。「ログを無効にする」を押してください。



以下の画面になりますので「無効(D)」にチェックを入れてください。設定終了後、「OK」 ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じます。



7 アプリごとの変換に必要な設定(必須)

アプリケーションの PDF 変換時に必要な設定があります。

7.1 Excel・Word の用紙設定

以下のように印刷されることがあります。

- Office の用紙サイズが A4 でプリンタのデフォルトがレターの場合、レターで印刷される。
- Office の用紙サイズがレターでプリンタのデフォルトが A4 の場合、A4 で印刷される。

7.1.1 Office2003 の場合

7.1.1.1 Excel の設定方法

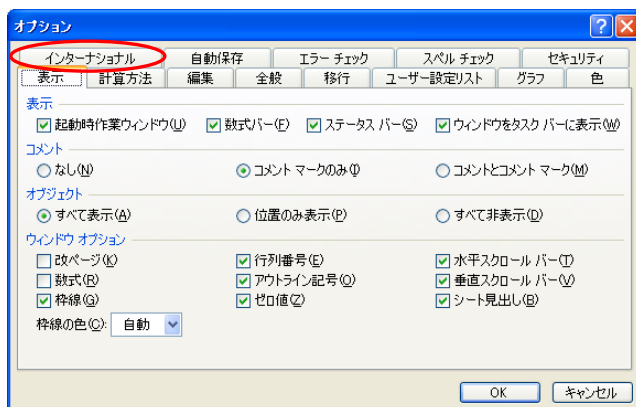
上記の現象を回避するには Excel のオプションの「基本の用紙サイズ(A4/レター)に合わせて自動調整する」という機能を OFF にする必要があります。

例として、Office2003 Excel の設定方法を説明いたします。

(1)Excel のツールバー→ツール→オプションを選択してください。



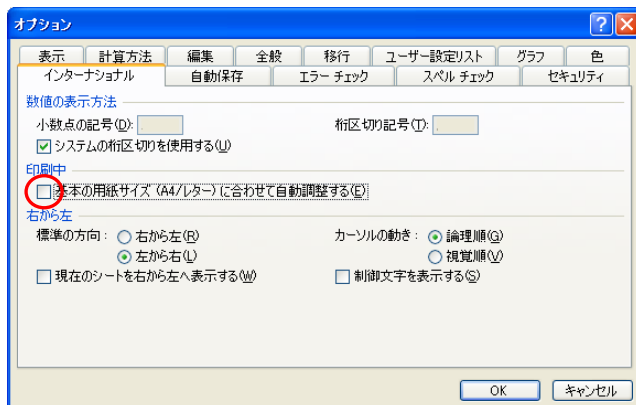
(2)オプション画面が表示されます。画面上部のタブからインターナショナルを選択してください。



(3) インターナショナルの画面が表示されます。

印刷中の項目にある「基本の用紙サイズ(A4/レター)に合わせて自動調整する」のチェックを外してください。
(デフォルトの状態ではチェックが付いています。)

設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。



以上で、設定は完了です。

※このオプションが ON で A4/レターの場合、プリンタのデフォルトの用紙サイズで印刷されます。

(コンバータ以外のプリンタでも同じです。)

正確に変換されたい場合、変換するユーザ名にてログインして、上記設定を OFF にしてください。

レターサイズが A4 になっても構わないということであれば、PDF コンバータの用紙設定を A4 に設定してください。

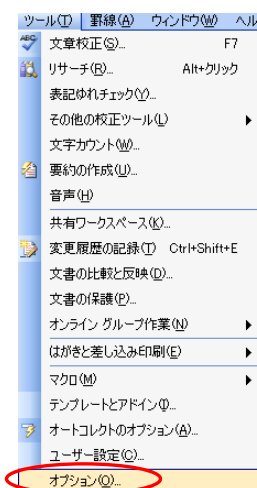
※Excel において A4/レター以外の組み合わせは全て Office の用紙サイズで印刷されます。

7.1.1.2 Word の設定方法

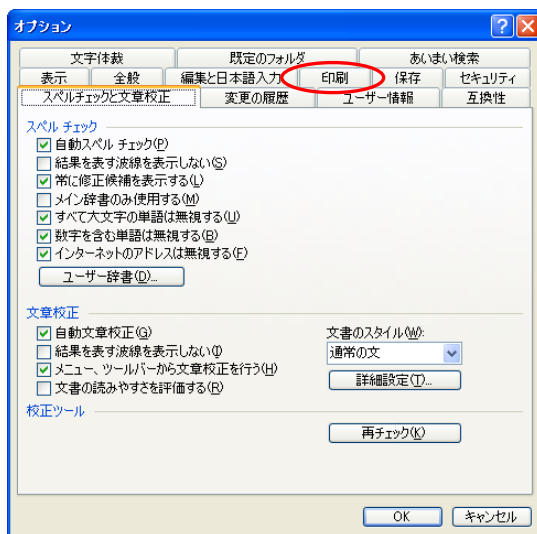
この現象を回避するには Word のオプションの「基本の用紙サイズ(A4/レター)に合わせて自動調整する」という機能を OFF にする必要があります。

例として、Office2003 Word の設定方法を説明いたします。

(1) Word のツールバー→ツール→オプションを選択してください。



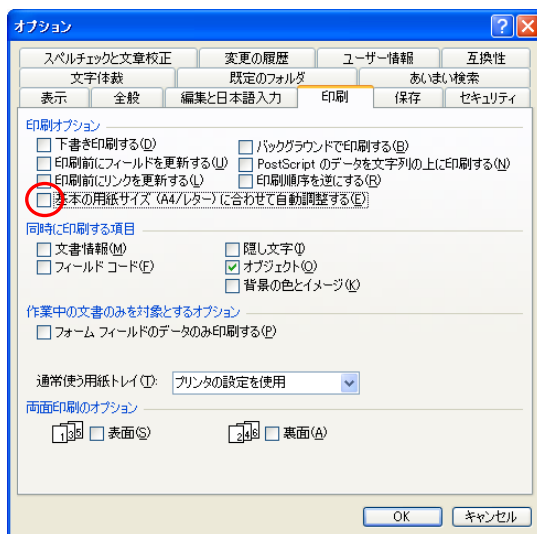
(2)オプション画面が表示されます。画面上部のタブから印刷を選択してください。



(3)印刷の画面が表示されます。

印刷オプションの項目にある「基本の用紙サイズ(A4/レター)に合わせて自動調整する」のチェックを外してください。
(デフォルトの状態ではチェックが付いています。)

設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。



以上で、設定は完了です。

※このオプションが ON で A4/レターの場合、プリンタのデフォルトの用紙サイズで印刷されます。
(コンバータ以外のプリンタでも同じです。)

正確に変換されたい場合、変換するユーザ名にてログインして、上記設定を OFF にしてください。

レターサイズが A4 になっても構わないということであれば、PDF コンバータの用紙設定を A4 に設定してください。

※Word において A4/レター以外の組み合わせは全て Office の用紙サイズで印刷されます。

7.1.2 Office2007 の場合

7.1.2.1 Excel の設定方法

この現象を回避するには Excel のオプションの「A4 または 8.5×11 インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する」という機能を OFF にする必要があります。

例として、Office2007 Excel の設定方法を説明いたします。

(1)Excelを開き、Office ボタン→Excel のオプションを選択してください。



(2)オプション画面が表示されます。「詳細設定」-「全般」に移動し、「A4 または 8.5×11 インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する」のチェックを外してください。(デフォルトの状態ではチェックが付いています。)
設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。



以上で、設定は完了です。

※このオプションが ON で A4/レターの場合、プリンタのデフォルトの用紙サイズで印刷されます。

(コンバータ以外のプリンタでも同じです。)

正確に変換されたい場合、変換するユーザ名にてログインして、上記設定を OFF にしてください。

レターサイズが A4 になっても構わないということであれば、PDF コンバータの用紙設定を A4 に設定してください。

※Excel において A4/レター以外の組み合わせは全て Office の用紙サイズで印刷されます。

7.1.2.2 Word の設定方法

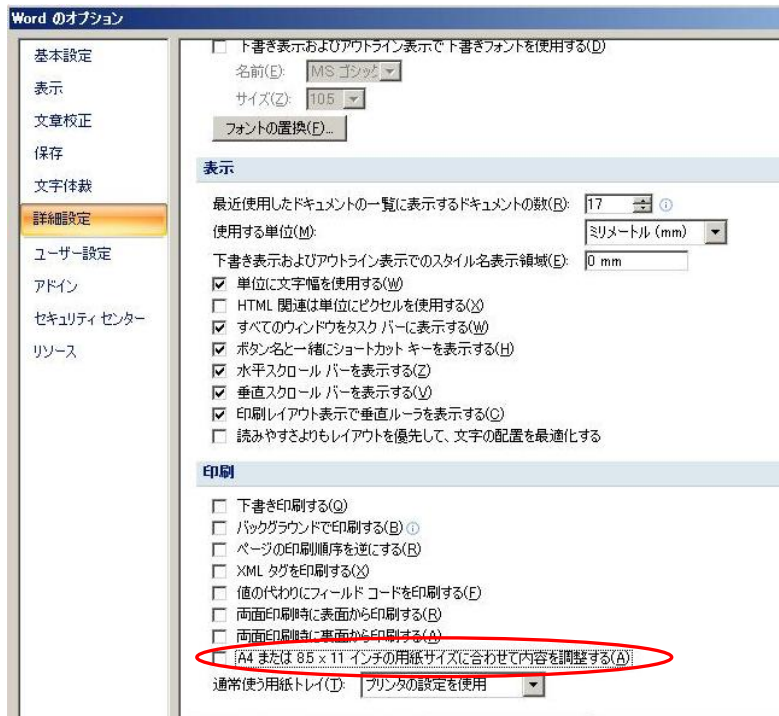
この現象を回避するには Word のオプションの「A4 または 8.5×11 インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する」という機能を OFF にする必要があります。

例として、Office2007 Word の設定方法を説明いたします。

(1)Word を開き、Office ボタン→Word のオプションを選択してください。



- (2)オプション画面が表示されます。「詳細設定」-「全般」に移動し、「A4 または 8.5×11 インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する」のチェックを外してください。(デフォルトの状態ではチェックが付いています。)
設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。



以上で、設定は完了です。

※このオプションが ON で A4/レターの場合、プリンタのデフォルトの用紙サイズで印刷されます。
(コンバータ以外のプリンタでも同じです。)

正確に変換されたい場合、変換するユーザ名にてログインして、上記設定を OFF にしてください。

レターサイズが A4 になっても構わないということであれば、PDF コンバータの用紙設定を A4 に設定してください。

※Word において A4/レター以外の組み合わせは全て Office の用紙サイズで印刷されます。

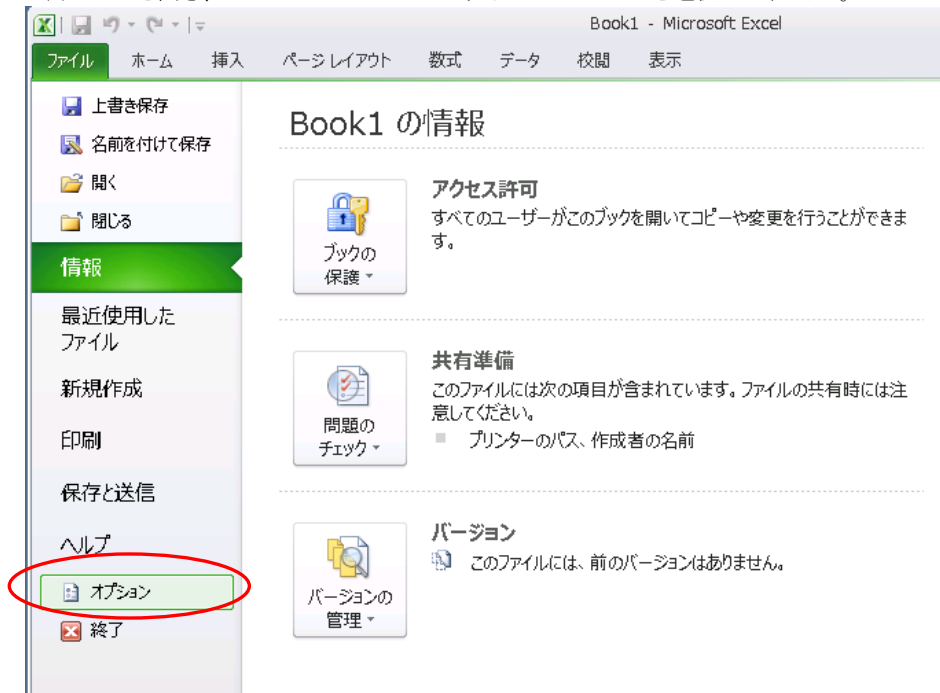
7.1.3 Office2010 の場合

7.1.3.1 Excel の設定方法

この現象を回避するには Excel のオプションの「A4 または 8.5×11 インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する」という機能を OFF にする必要があります。

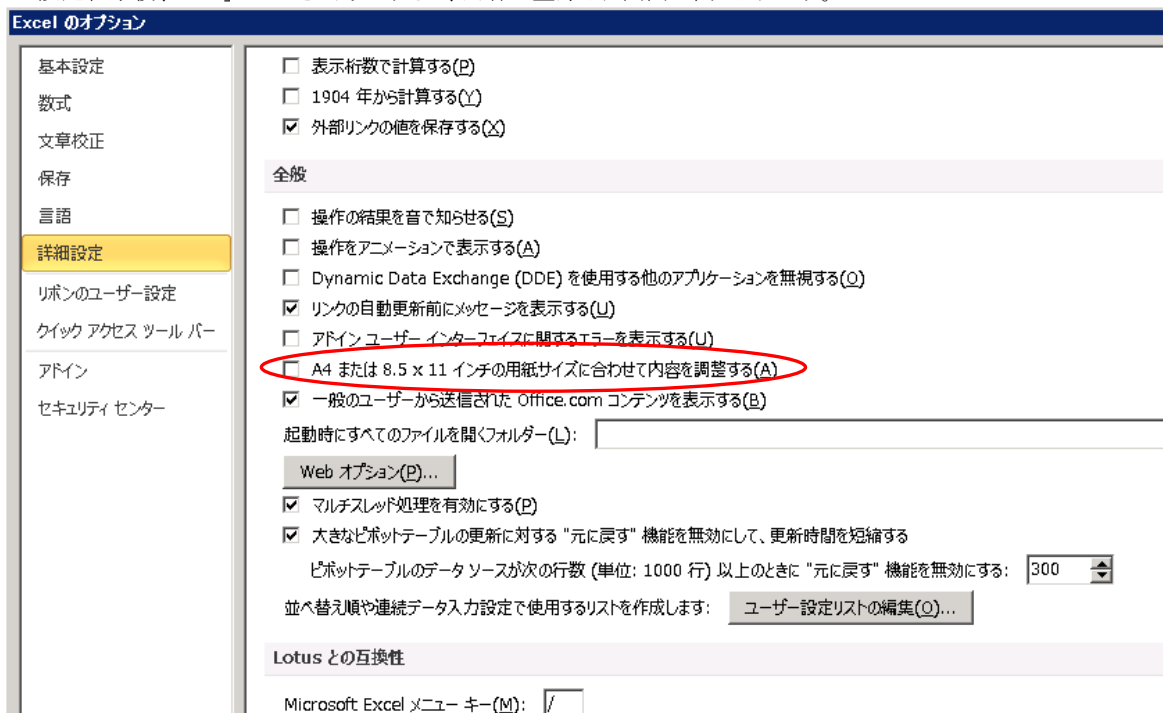
例として、Office2010Excel の設定方法を説明いたします。

(1)Excel を開き、Excel のツールバー→ファイル→オプションを選択してください。



(2)オプション画面が表示されます。「詳細設定」→「全般」に移動し、「A4 または 8.5×11 インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する」のチェックを外してください。(デフォルトの状態ではチェックが付いています。)

設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。



以上で設定は完了です。

※このオプションが ON で A4/レターの場合、プリンタのデフォルトの用紙サイズで印刷されます。

(コンバータ以外のプリンタでも同じです。)

正確に変換されたい場合、変換するユーザ名にてログインして、上記設定を OFF にしてください。

レターサイズが A4 になっても構わないということであれば、PDF コンバータの用紙設定を A4 に設定してください。

※Excel において A4/レター以外の組み合わせは全て Office の用紙サイズで印刷されます。

7.1.3.2 Word の設定方法

この現象を回避するためには Word のオプションの「A4 または 8.5×11 インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する」という機能を OFF にする必要があります。

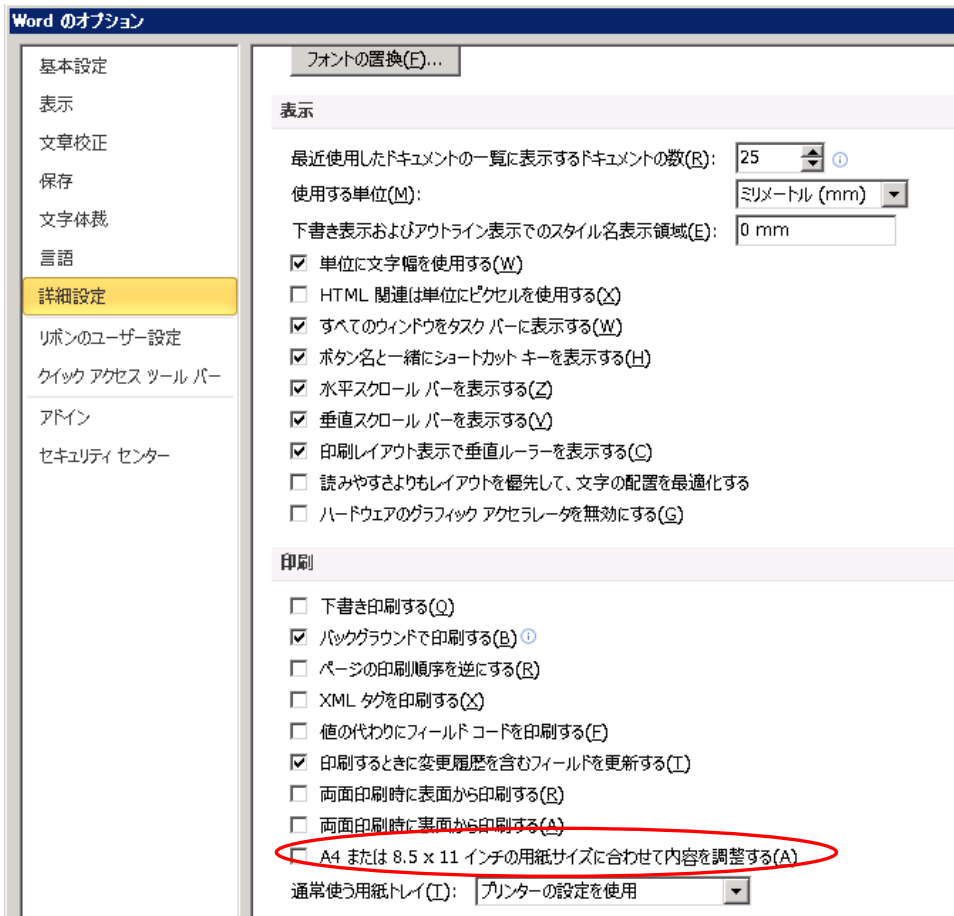
例として、Office2010Word の設定方法を説明いたします。

(1) Word を開き、Word のツールバー→ファイル→オプションを選択してください。



(2)オプション画面が表示されます。「詳細設定」-「印刷」に移動し、「A4 または 8.5×11 インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する」のチェックを外してください。(デフォルトの状態ではチェックが付いています。)

設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。



以上で、設定は完了です。

※このオプションが ON で A4/レターの場合、プリンタのデフォルトの用紙サイズで印刷されます。

(コンバータ以外のプリンタでも同じです。)

正確に変換されたい場合、変換するユーザ名にてログインして、上記設定を OFF にしてください。

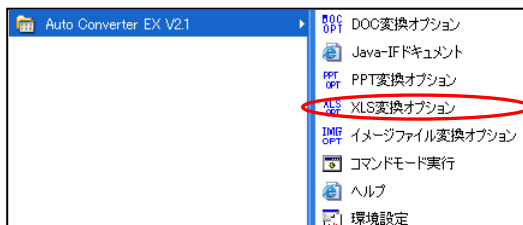
レターサイズが A4 になっても構わないということであれば、PDF コンバータの用紙設定を A4 に設定してください。

※Word において A4/レター以外の組み合わせは全て Office の用紙サイズで印刷されます。

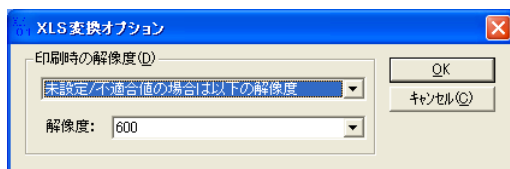
7.2 Excel オプションの設定(XLS 変換オプション)

7.2.1 設定方法

(1)スタート→プログラム→Auto Converter EX Vx.x.x→XLS 変換オプションを選択してください。



(2)デフォルト設定は以下のようになっています。



- 未設定/不適合の場合は以下の解像度
- 解像度:600

- 基本的に「未設定/不適合の場合は以下の解像度」の設定のままで、変換することをお勧めします。解像度の設定は「600」または「300」をお勧めします。600 でうまく変換できないケースが頻発する場合、「300」に変更してみてください。

基本的変更は不要ですが、お客様の環境によっては、以下のいずれかの設定に変更することが可能です。

7.2.2 設定を変更する場合(通常の場合、以下の設定は不要です)

1.「何もしない」を選択

Office2000 以降で作成されたファイルには、解像度設定が存在します。このため解像度設定を特に行わなくても変換に問題がありません。「未設定/不適合の場合は以下の解像度」より少し変換スピードが改善します。

注意 Office97 で作成されたファイルを再保存したファイルや、Office97 のファイルからシートごとコピーや移動して作成されたファイルは、Office97 以前の属性を引き継ぐため解像度設定されません。この機能は Excel 等をシステムから出力する場合で、Excel の印刷設定の解像度が必ずある場合のみ有効です。通常で使用する場合は、「何もしない」を選択することはお勧めしません。

2.「常に以下の解像度」を選択 解像度 600 指定

非常に特殊な Excel が投げ込まれる可能性があり、安定性を非常に重視したい場合にお勧めです。ファイル変換スピードは低下します。すべてのファイルを指定された dpi で変換するようになります。「未設定/不適合の場合は以下の解像度」では問題が出る場合にのみ検討ください。

7.3 Excel/PowerPoint 2007/2010 限定の設定

「PPT には A3・B4 といった用紙サイズが基本的にありません。このため、これらの用紙サイズを使用する場合、PPT ファイル変換のオプション画面にて変換する用紙サイズを指定する必要があります。インストール時には標準設定になっています。特に問題のない設定になっているはずですが、運用上問題がある場合のみ以下を確認ください。

7.3.1 PowerPoint の印刷効果の設定(この設定は PPT の PDF 変換で Office2007/2010 の場合必須です)

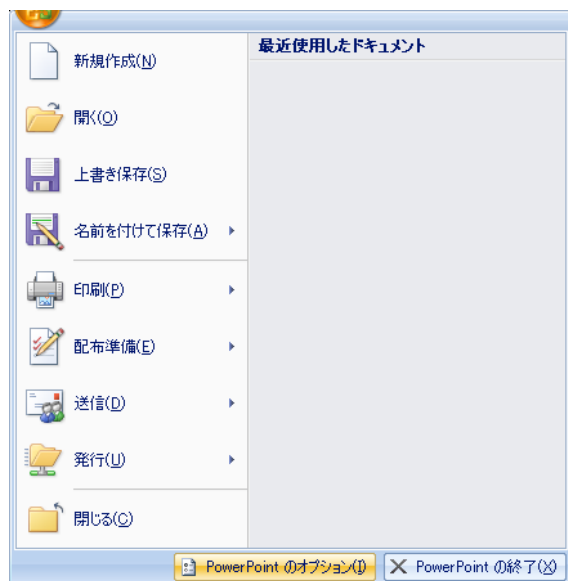
以下のように印刷されることがあります。

- Office 2003 で出力されていた影が Office2007/2010 で出力されない。

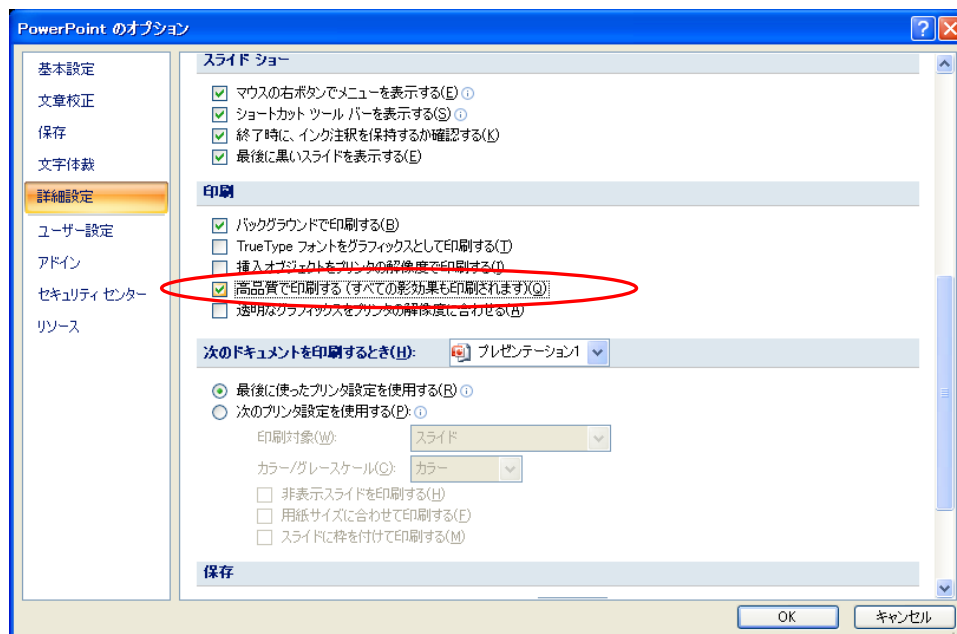
この現象を回避するには PowerPoint のオプションの「高品質で印刷する(すべて影効果も印刷されます)」という機能を ON にする必要があります。

例として、設定方法を説明いたします。

(1) PowerPoint を開き、Office ボタン→PowerPoint のオプションを選択してください。



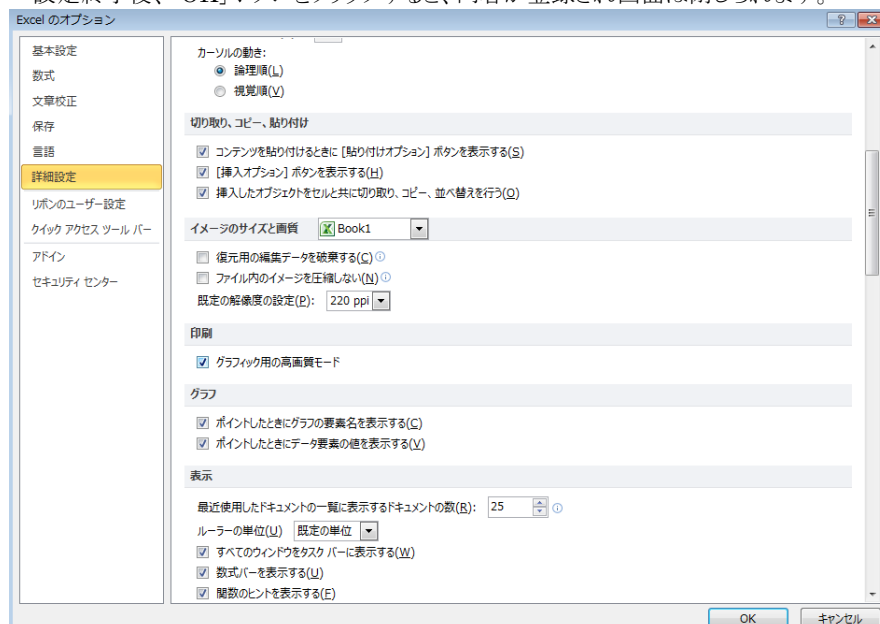
- (2) オプション画面が表示されます。「詳細設定」-「印刷」に移動し、「高品質で印刷する(すべての影効果も印刷されます)」にチェックをいれてください。(デフォルトの状態ではチェックが外れています。)
設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。



以上で、設定は完了です。

7.3.2 Excel の印刷効果の設定(この設定は Excel の PDF 変換で Office2007/2010 の場合必須です)

- (1) Excel を開き、Office ボタン(ファイル) → Excel のオプションを選択してください。
- (2) オプション画面が表示されます。「詳細設定」-「印刷」に移動し、「高品質で印刷する(すべての影効果も印刷されます)」にチェックをいれてください。(デフォルトの状態ではチェックが外れています。)
設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。

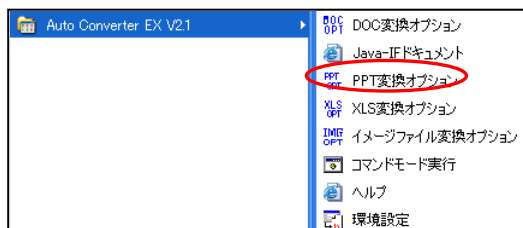


7.4 PowerPoint2010 限定の必須設定

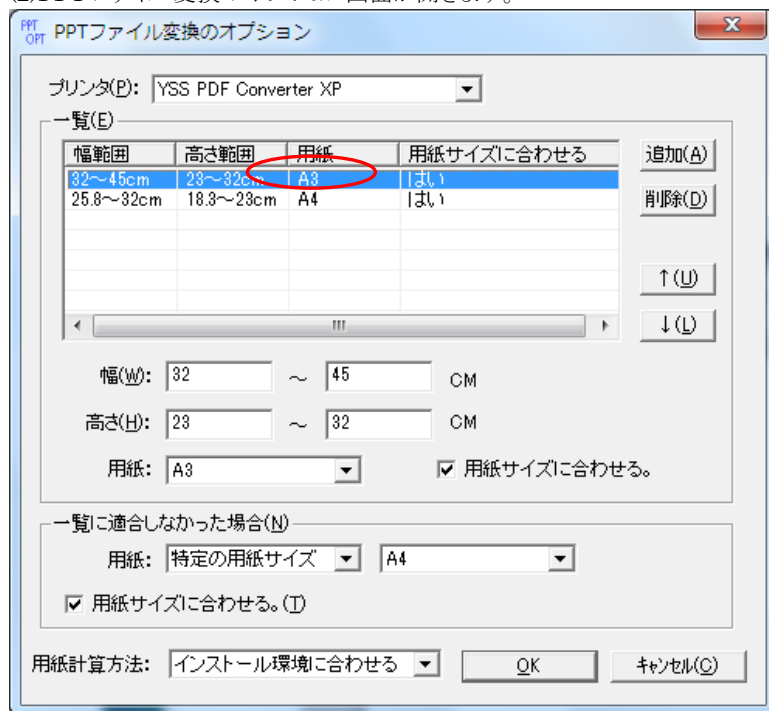
この設定は PowerPoint を Office2010 で変換する際は必須です

Office2010 で A3 サイズの PowerPoint の印刷をすると原因不明のエラーになる事があります。
この問題を回避するため、Office2010 では PowerPoint 変換オプションで以下の設定をお願いします。

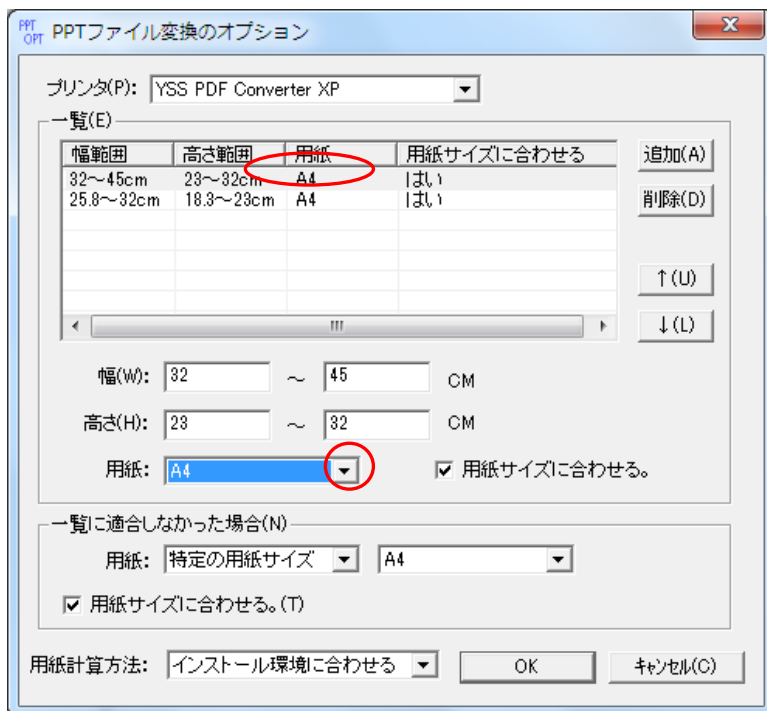
- (1) スタート→すべてのプログラム→Auto Converter EX Vx.x.x→PPT 変換オプションを選択してください。



- (2) PPT ファイル変換のオプション画面が開きます。



上記がデフォルトの状態です。



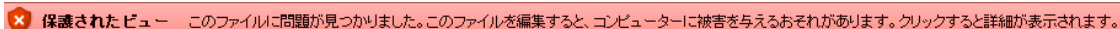
「一覧」「用紙」の部分の赤い丸で囲まれた逆三角形の部分をクリックし、コマンド欄のコンボボックスを開いて「A3」から「A4」を選択してください。

設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じます。

7.5 Office 2007/2010 をご使用する場合の注意点

Office2010 の新機能として、Office に互換性の無いファイルにエラーを出す機能があります。Office を使わずに作成したファイル(Java POI やその他 Microsoft 以外のソフト)で出る確率が高いようですが、Office2007 以前で作成したファイルでも出ることがあります。

これに該当するファイルを Office2010 で開くと以下のようなエラーが出ます。

 **保護されたビュー** このファイルに問題が見つかりました。このファイルを編集すると、コンピューターに被害を与えるおそれがあります。クリックすると詳細が表示されます。

PDF オートコンバータ EX で PDF 変換をした際に、以下のエラーになります。

611 変換モジュールがエラーを返しました。

804 ファイルオープンエラー

Office OLE 機能から返されたエラー

このファイルから問題が検出されました。コンピューターを保護するため、ファイルは開かれません。

推奨回避方法

この問題の発生の原因はファイルにあることが多いです(環境や設定にも依存します)。問題が出ているのが、このファイルだけであれば、該当のファイルを Office2010 で開いて、保存しなおしてください。

もし、システムから大量に出力されている場合、システム側でエラーの出ないファイルにできないか確認ください。

ファイルを修正する等上記の回避方法をとることが現実的でなく、PDF オートコンバータ EX による変換を行わざるをえない場合があります。

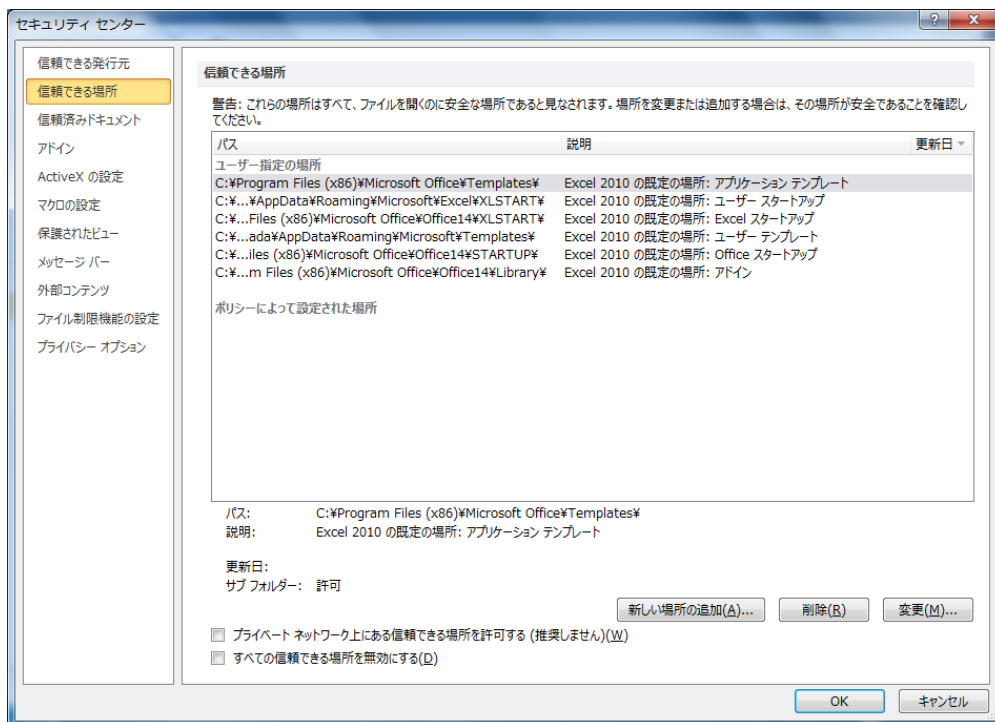
- 過去に大量に問題ファイルを作成してしまっている、
- システム側で修正ができない、
- どのようなファイルが送られてくるかわからない

このような場合、以下の設定を行うことで、PDF オートコンバータ EX による PDF 変換できるようになります。但し、該当ファイルは Microsoft Office では破損ファイルとみなされているものですから、あくまで現時点での回避方法となります。今後のサービスパックや次期 Office では読めなくなる、つまり変換できなくなるリスクがあります。

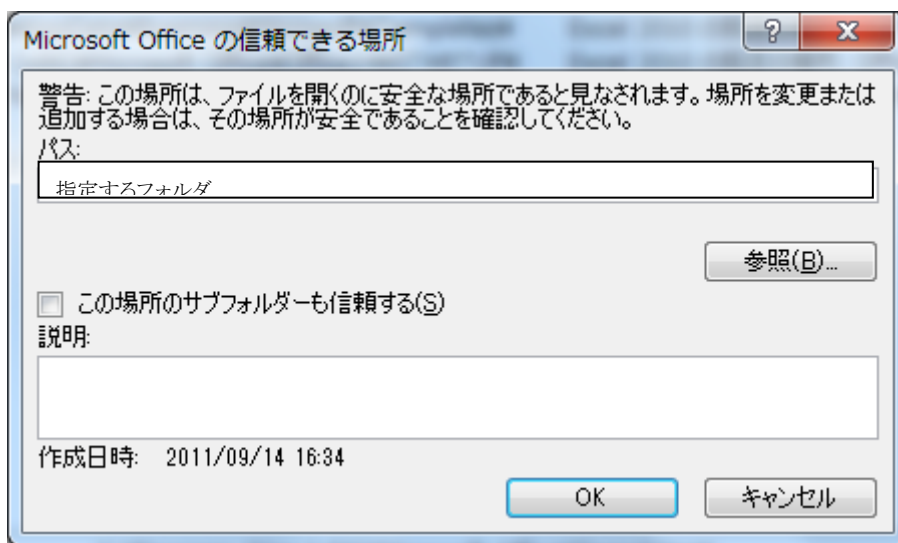
また、以下に説明する内容は、セキュリティを低下させる側面があります。このような設定をされるかどうかは、あくまで御社の判断でお願いいたします。

具体的には、サーバ上の該当の Office のアプリケーションを開いて、変換元のファイルが存在するフォルダを信頼できる場所に登録することによって変換が可能になります。

Office アプリケーションで「ファイル → オプション → セキュリティセンター → セキュリティセンターの設定 → 信頼できる場所」と選択して行くことによって、次の画面が開きます。



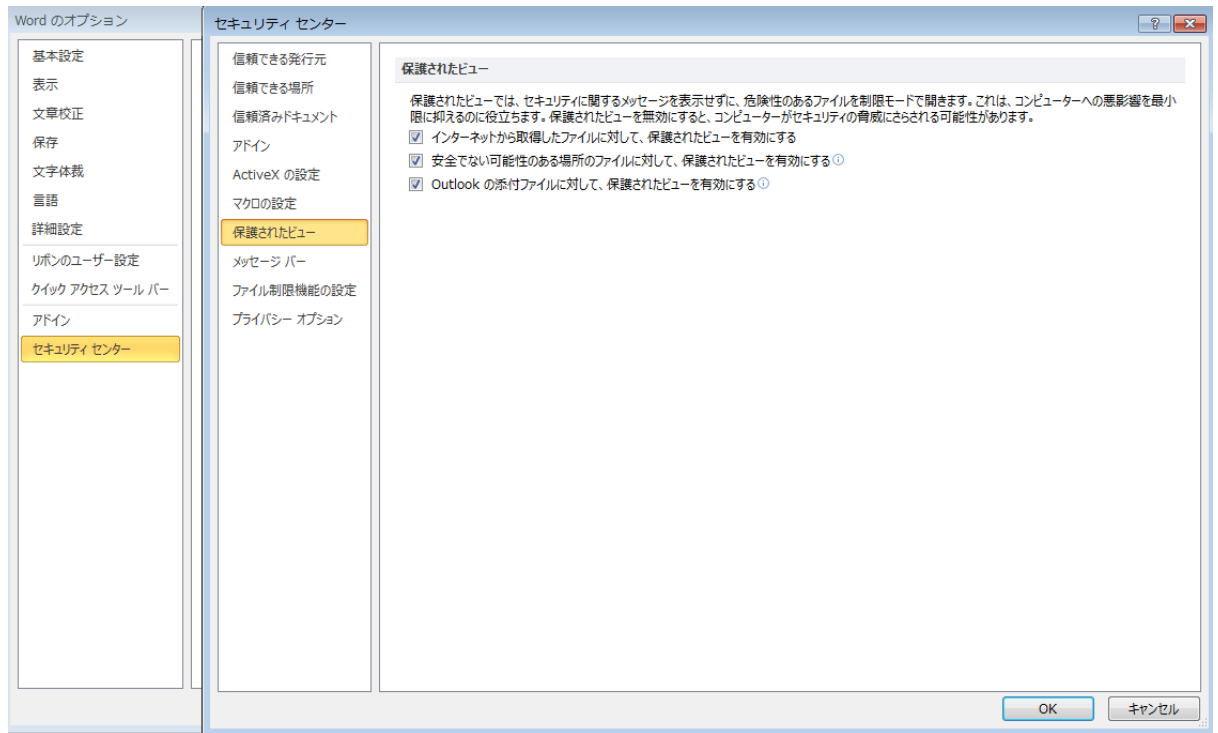
ここで、「新しい場所追加」を選択し、変換元のフォルダを追加します。フォルダ変換の場合は、指定した監視フォルダ全体を指定し、コマンド/Java/C 等で変換する場合、変換されるファイルが置かれているフォルダすべてを指定します。



特定のフォルダ配下に変換対象ファイルがある場合はトップフォルダを指定し「この場所のサブフォルダーも信頼する」をチェックします。

ネットワーク先などのファイルは、保護されたビューなどのチェックを外す等の対応をとる必要がある可能性があります。

上記の他に、以下の設定でチェックを外して回避する余地もあります。

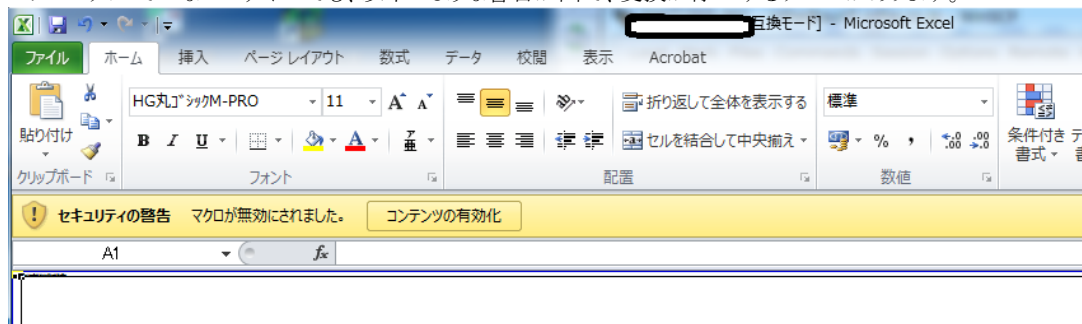


変換対象のアプリケーションすべてに設定する必要があります。

7.6 Office2007/2010 で使用する場合に必須の設定

7.6.1 発生する問題

マクロの入っていないファイルでも、以下のような警告が出て、変換が停止する場合があります。

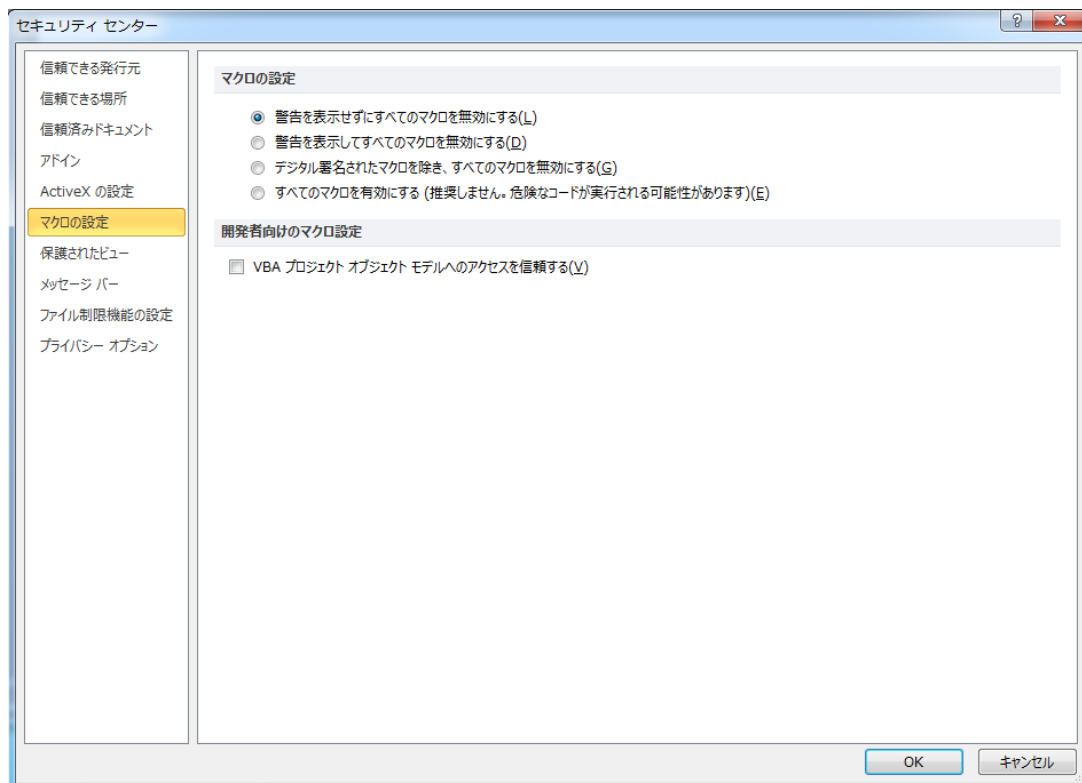


7.6.2 処理を停止しない為に行うべき設定

以下を行ってください。

PDF 変換と同じ権限者でログインして、Word を起動してください。

ファイル→オプション→セキュリティセンター→マクロの設定
を選ぶと以下の画面が表示されます。

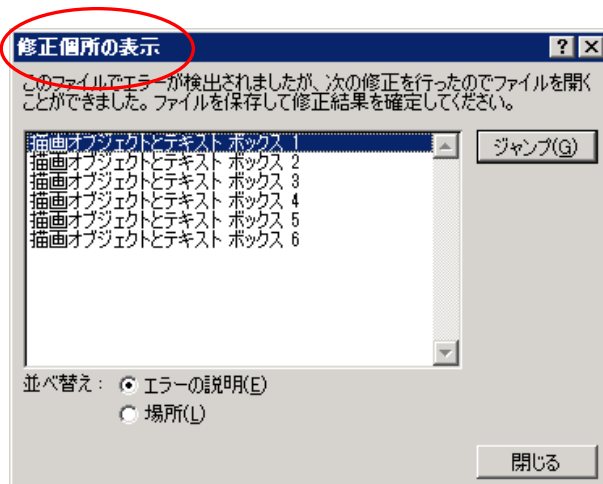


上記のように、「警告を表示せずにすべてのマクロを無効にする」を選択してください。

7.7 Office2007/2010 で Word を使用する場合に必須の設定

7.7.1 発生する問題

64bitOS の環境(Office 2007 や 2010 64bit)で、OfficeXP や Office2003 で作られた Word ファイル(オブジェクトが規定サイズからはみ出して作成されたファイル)を変換するとエラーの下記の様な「修正箇所の表示」という内容のエラー説明のダイアログが出て、自動変換がストップします。



7.7.2 処理を停止しない為に行うべき設定

Office2010 又は Office2007 で、破損した文書を修正して開く際に表示する[修正箇所の表示]のダイアログボックスを非表示にする方法について説明致します。

●注意●

レジストリを編集しますので、細心の注意をはらって処理するようお願い致します。

レジストリを誤って変更すると、深刻な問題が発生することがあります。

万一に備えて編集前にレジストリのバックアップをしておくこと、問題が発生した場合にレジストリを復元することができます。

[修正箇所の表示]のダイアログボックスを非表示にするには、以下の手順を実行してレジストリ値を新規に作成して下さい。

1. Word2007 または Word2010 を終了します。
2. [スタート]ボタンをクリックします。
3. [ファイル名を指定して実行]をクリックし、「regedit」と入力して[OK]をクリックします。
4. 管理者のパスワードを要求するダイアログボックスが表示された場合はパスワードを入力して[OK]をクリックし、確認を要求するダイアログボックスが表示された場合は[続行]をクリックします。
5. [レジストリエディタ]画面の左側のツリーを、次のレジストリサブキーまで展開します。

Word2010 の場合

HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Microsoft¥Office¥14.0¥Word¥Options

Word2007 の場合

HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Microsoft¥Office¥12.0¥Word¥Options

6. [レジストリエディタ]画面の[編集]メニューの[新規]をポイントし、[DWORD(32 ビット)値]をクリックします。
7. [新しい値]に、BulletProofOnCorruption と入力して、Enter キーを押します。
8. BulletProofOnCorruption を右クリックし、[修正]をクリックします。
9. [値のデータ]に「1」と入力して[OK]をクリックします。
10. [レジストリエディタ]画面の[ファイル]メニューの[レジストリエディタの終了]をクリックします。

以上で設定は完了です。

補足:[修正箇所の表示]ダイアログボックスを表示するには、BulletProofOnCorruption の[値データ]に「0」を入力して下さい

7.8 一太郎の設定(一太郎を変換しない場合、以下の設定は不要です)

7.8.1 制限事項

- 変換サーバには、一太郎 2007 もしくは一太郎 2009/2010/2011 をインストールしてください。左記以外のバージョンをインストールした場合の動作は保障できません。一太郎 2008 につきましては、サーバ上での動作に問題があり、不可とさせていただきます。
- 一太郎にはサーバインストールできないバージョンが存在しますので、必ず購入前にご確認ください。
- 一太郎には、サービス変換/バックグラウンド変換できないファイルが存在します。ファイルを作成する際にオブジェクトを制限するか、またはフロント変換(コマンド等)で対応してください。(一太郎のオブジェクトの中で「挿入」-「オブジェクト枠」にて Microsoft のオブジェクトを貼り付けた場合、貼り付けた部分が PDF に変換されません。)
- OLE を正常に動作させるため、一太郎に最新のパッチをあてた状態で運用してください。
- 一太郎をご利用頂く際には、PDF オートコンバータ EX の拡張子設定画面にて、一太郎の拡張子を登録してください。

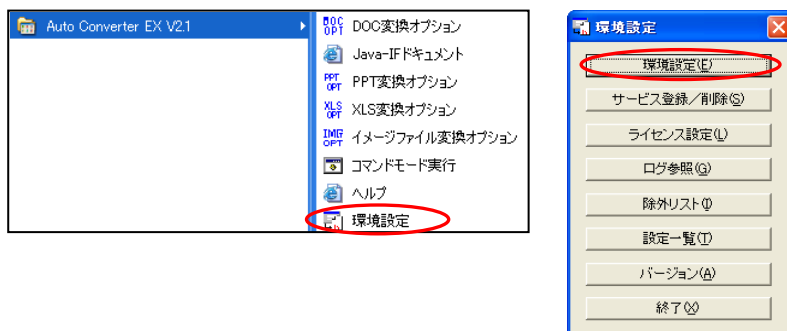
7.8.2 PDF オートコンバータ EX の一太郎対応状況につきまして

PDF オートコンバータと EX での一太郎ファイルの対応状況です。

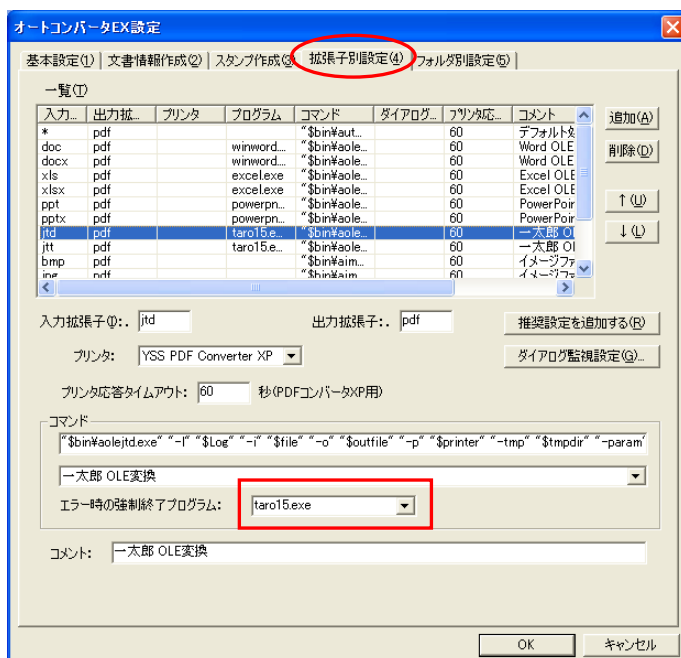
ファイルの状況	EX の状況	備考
普通のファイル	○	
一太郎だけのマルチシート	○	
Office ファイル等の別フォーマットが混ざったマルチシート	△	原則一太郎部分のみ変換。
パスワード付きファイル	×	NG となり次の処理へは進みません。
差込データのあるファイル	×	NG となり次の処理へは進みません。
アウトラインファイル	△	7.6.4 の設定をしないと NG となります。
一太郎外字を含むファイル	△	フォントの埋め込みをしない場合 ATOK と該当の外字入っている環境限定でのみ表示
一太郎のオブジェクトの中で「挿入」-「オブジェクト枠」にて Microsoft のオブジェクトを貼り付けた場合、貼り付けた部分が PDF に変換されません	△	左記の現象は、バックグラウンド変換のみです。 フォワード変換では正常に変換されます。回避方法としては、 1) フォワード変換に変更する。 2) 貼り付け方を、「挿入」→「オブジェクト枠」以外にして保存する

7.8.3 拡張子別設定の調整

- (1) スタート→すべてのプログラム→Auto Converter EX Vx.x.x→環境設定を選択してください。
環境設定画面が開きます。環境設定画面の「環境設定」ボタンをクリックしてください。



- (2) オートコンバータ EX 設定画面が開きます。
画面上部にある拡張子別設定タブを選択してください。
拡張子別設定画面の一覧から「jtd」を選択してください。



- (3) 上記画面の「エラー時の強制終了プログラム」を、一太郎を起動した際に起動される EXE 名に変更してください。
taroXX.exe の XX の数字の変更になると思います。
- (4) 拡張子「jtt」に対しても、「エラー時の強制終了プログラム」の EXE 名を変更してください。

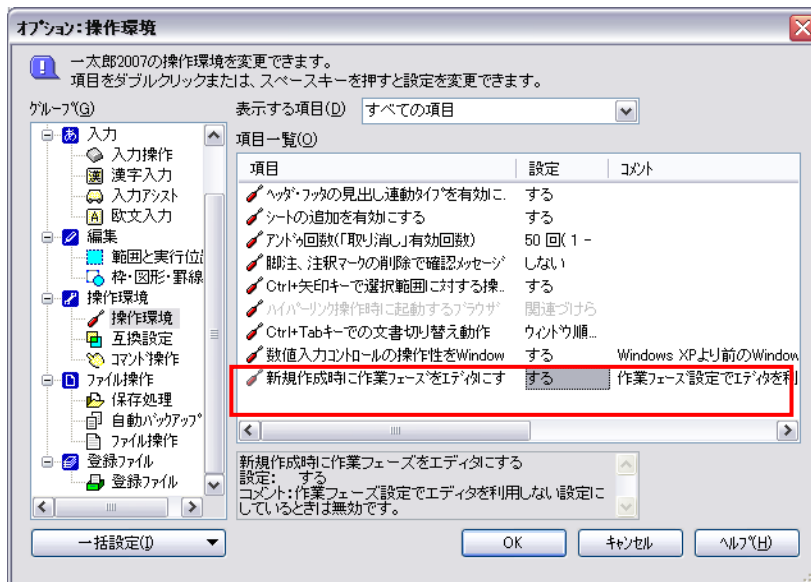
7.8.4 アウトラインファイルの変換の設定

一太郎にはアウトラインという状態のファイルが存在します。このファイルを変換するためには、以下の設定が必須です。アウトラインファイルは以下の設定をしないと以下のエラーになります。

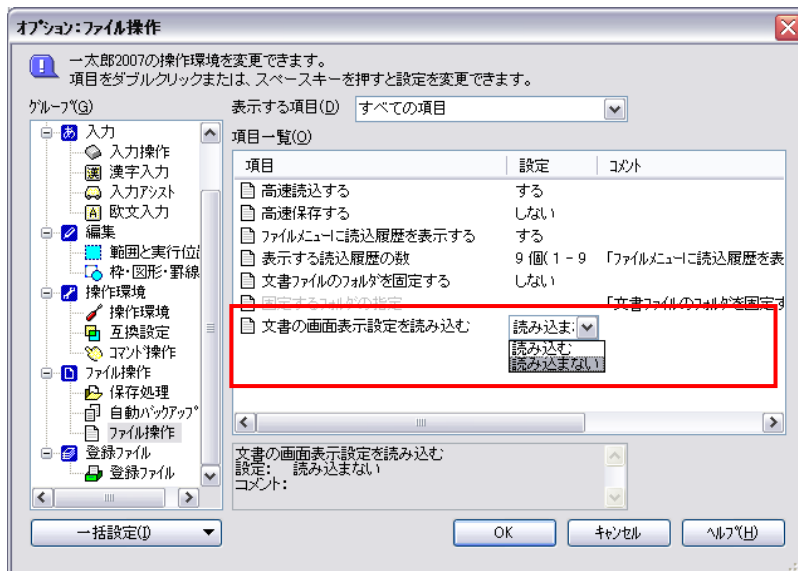
[611]:変換モジュールがエラーを返しました。

Warn(8):印刷するデータが無い為、シートをスキップしました。[SheetNo:1][提案確認画面では実行できません。]

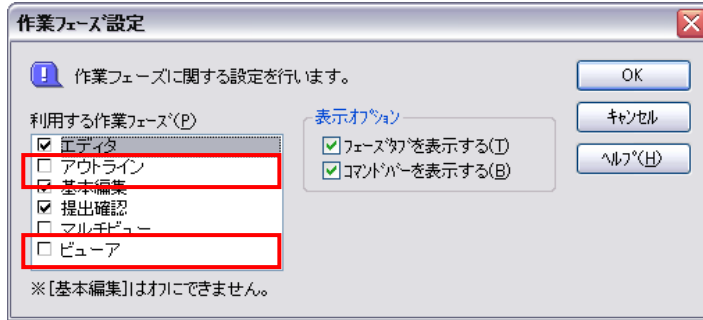
[701]:変換対象のページがありませんでした。



ツール→オプション→オプション→操作環境→操作環境において
「新規作成時に作業フェーズをエディタにする」を「する」に設定する。



ツール→オプション→オプション→ファイル操作→ファイル操作において
「文書の画面表示設定を読み込む」を「読み込まない」に設定する



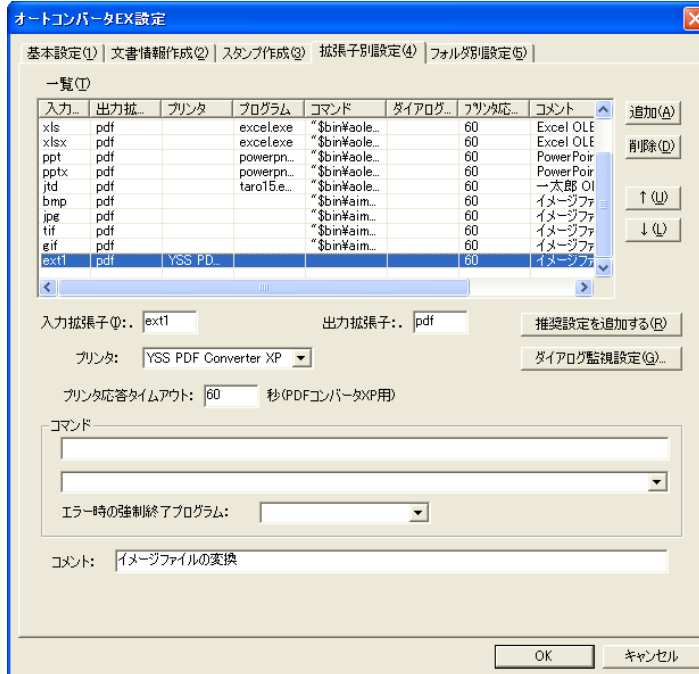
表示→作業フェーズ→作業フェーズ設定にて、
「アウトライン」と「ビューア」を未使用にする

7.9 標準サポート以外のアプリケーションを変換する場合の設定

今回は Text ファイル(変換するアプリケーションは OS 標準のメモ帳)の場合で説明します。

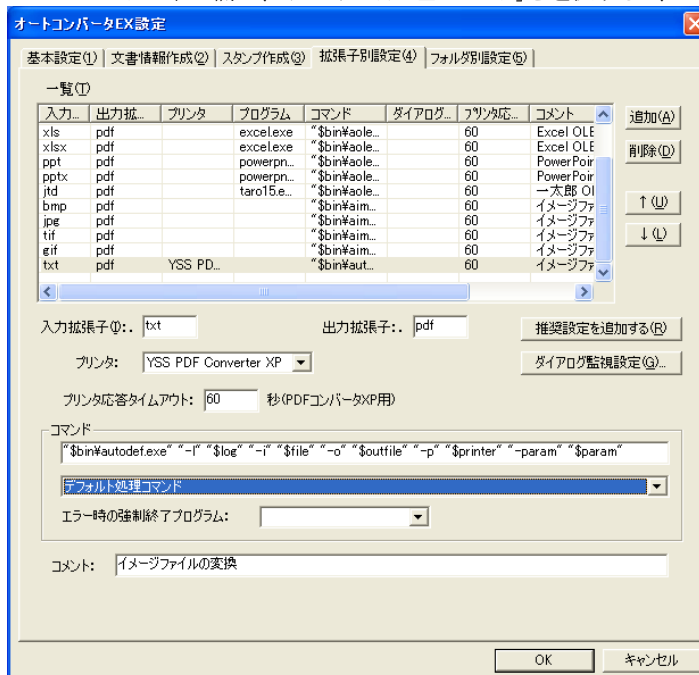
実際には、変換するアプリごとに合わせた「拡張子」と「エラー時の強制終了プログラム」を設定をしてください。

(1)拡張子別設定の画面で、「追加」ボタンを押すと、以下のように新しい拡張子の入力ができるようになります。

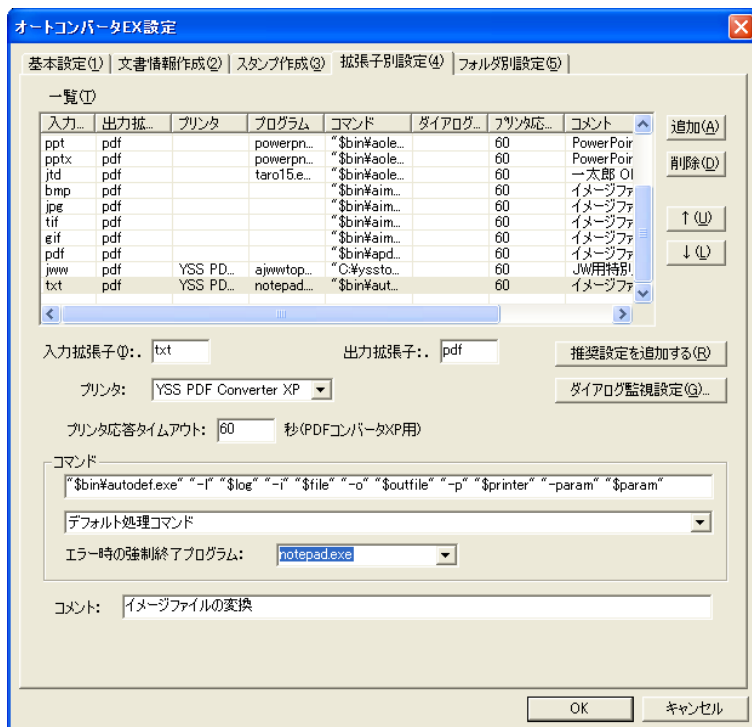


(2)入力拡張子に「txt」を入れてください。(変換したいアプリケーションに合わせて設定してください)

コマンドの下の欄で、「デフォルト処理コマンド」を選択すると、上の欄にコマンドが自動で表示されます。



- (3) 拡張子「txt」に関連づけられたアプリケーションは、今回の場合は OS 標準の「メモ帳」である前提でお話します。「メモ帳」を開くと「notepad.exe」が起動します。「エラー時の強制終了プログラム」として「notepad.exe」を設定してください。



コメント欄は変更してもなくても大丈夫です。これで終了であれば、OK を押してください。
他の拡張子を続けて登録する場合は、追加ボタンを押してください。

テキストファイル「txt」

DocuWorks「xdw」

その他拡張子別設定にないものは設定をお勧めします。

但し、すべてのアプリケーションが PDF 変換できる訳ではありません。ご注意ください。

7.10 PDF ファイルのフォント埋め込み

PDF コンバータ側でフォントを埋め込む設定をすることになります。

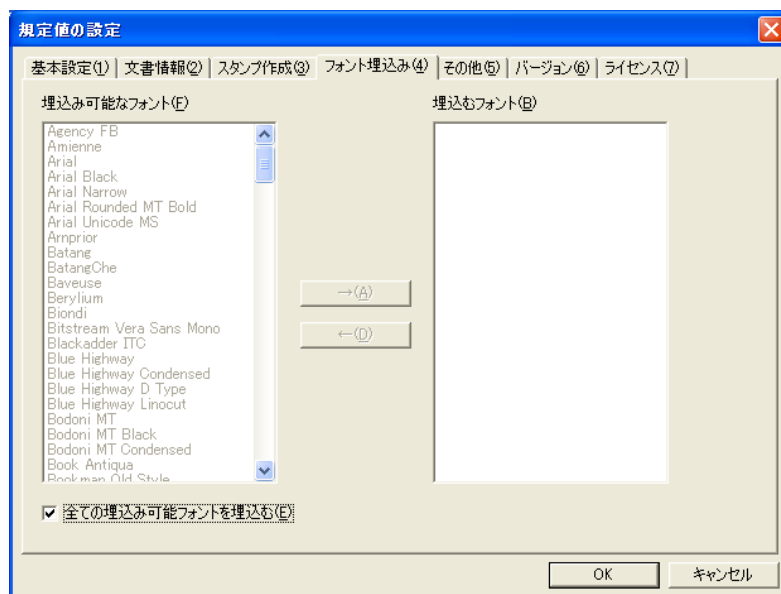
プリンタと FAX の一覧で「YSS PDF Converter XP」を選択してプロパティを選択してください。

以下の画面のように、右端のオプションタブを選択して、「環境設定」を選択すると「のプロパティ」というボタンが出ますので、押してください。



規定値の設定の画面が出ます。「フォント埋込み(4)」のタブを選択して、左側の埋め込み対象のフォント群から対象フォントをクリックして右矢印「→」を押すと右側にフォント名が移動します。右側に表示されたフォントが埋め込み対象となります。左側のフォント一覧に表示されないフォントは埋め込みが許可されていないフォントとなります。

全部の埋め込み許可フォントを埋め込み処理する場合は、左下の「全ての埋込み可能フォントを埋込む」のチェックをしてください。すると以下のような画面になります。

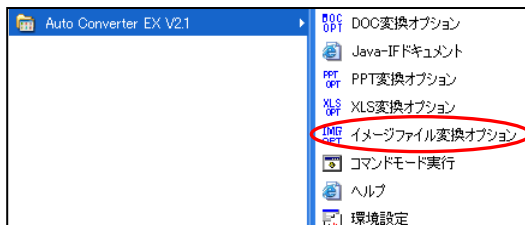


OK を押してください。

7.11 イメージ変換オプションの設定

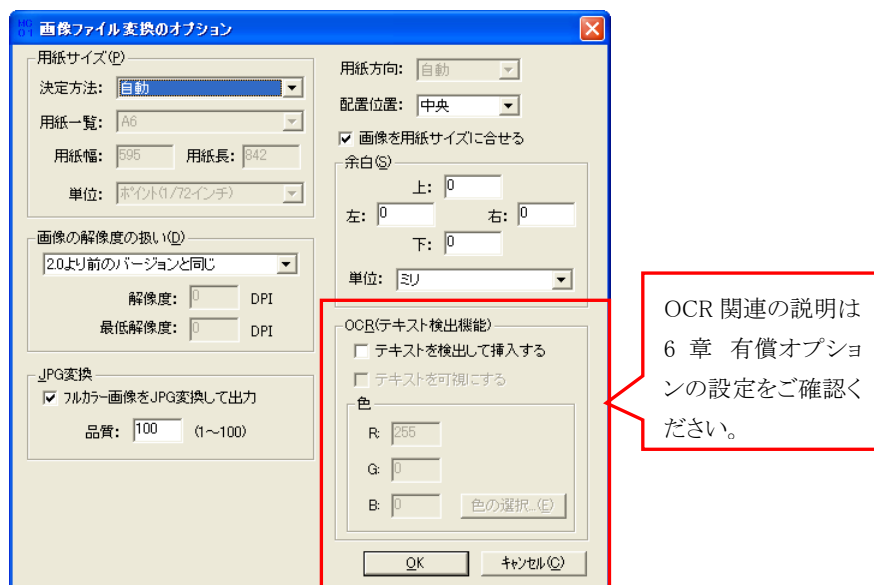
7.11.1 使用方法

(1) スタート→すべてのプログラム→Auto Converter EX VX.X.X→イメージ変換オプションを選択してください。



(2) 画像ファイル変換のオプション画面が開きます。

設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。



次のページで各項目の説明の一覧表があります。

項目	説明
用紙サイズ(決定方法)	用紙サイズの決定方法を選択します。
自動:	画像の大きさや解像度から、収まる大きさの用紙を自動的に選択し変換します。
用紙一覧から選択:	下の用紙一覧から用紙を選択します。イメージはこの大きさの用紙サイズに変換されます。
用紙サイズを指定:	下の用紙幅、用紙長に用紙のサイズ、及び単位を入力して用紙を指定します。イメージはこの大きさの用紙サイズに変換されます。
画像サイズから決定:	画像の大きさや解像度に合わせて、用紙サイズを決定します。
画像の解像度の扱い	用紙サイズを決定する為に使用する解像度値の扱いを選択・指定します。
2.0 より前のバージョンと同じ:	TIFF の場合のみファイル解像度が使用されます。
以下の DPI で処理する:	画像ファイルの解像度に依存せずに、『解像度』の項に入力された解像度を使用します。 〈注意〉変換マシンのメモリ性能にて高解像度に設定しても変換できない可能性があります。
画像ファイルの解像度を 使用する:	画像ファイル内の解像度を使用して用紙サイズを決定します。画像ファイルから取得できない場合は『取得できない場合』の項に入力された解像度を使用します。また、画像ファイル内の解像度が『最低解像度』より低い解像度の場合は『最低解像度』の項に入力された解像度を使用して用紙サイズを決定します。
JPG 変換	BMP 等で、形式がフルカラー画像の物を JPG に変換して出力します。
フルカラー画像を JPG 変換して出力:	フルカラー画像を JPG 変換して出力する場合、チェックします。
品質:	カラー画像の品質 1(低画質)~100(高画質)の値を指定できます。 これによりファイルサイズを減少できる場合があります。
用紙方向	自動: 画像の大きさ(縦横のバランス)に合わせて決定されます。 縦: 常に縦に変換されます。 横: 常に横に変換されます。
配置位置	用紙中の配置する位置を指定します。
画像を用紙サイズに合わせる	チェックすると画像は用紙サイズの大きさに拡大、縮小されます。
余白	上下左右の余白量を単位と合わせて指定します。
「OK」ボタン	表示されている内容を設定ファイルに保存して、終了します。
「キャンセル」ボタン	設定ファイルに保存せずに、終了します。

8 有償オプションの設定

8.1 OCR オプション(別途有償)

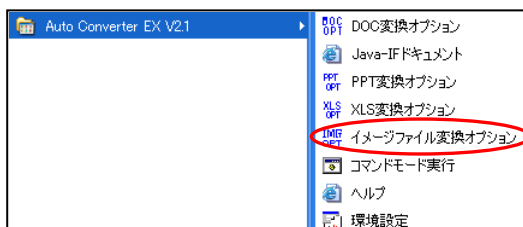
イメージファイル変換オプションでは、イメージファイル変換時の OCR 有償変換オプションを設定できます。

注意

ライセンスを購入していないのに OCR(テキスト検出機能)の項目にチェックをすると、画像変換がエラーになる場合があります。使用されない方はこのページの設定を行わないようにしてください。

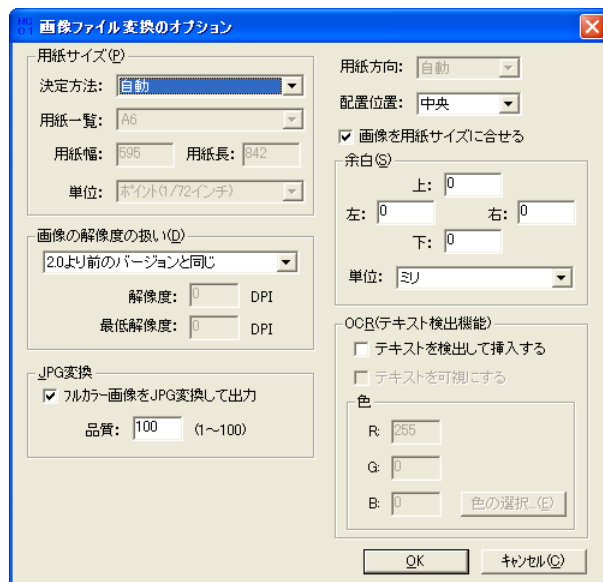
8.1.1 使用方法

(1)スタート→すべてのプログラム→Auto Converter EX VX.X.X→イメージ変換オプションを選択してください。



(2)画像ファイル変換のオプション画面が開きます。

設定終了後、「OK」ボタンをクリックすると、内容が登録され画面は閉じられます。



項目	説明
OCR(テキスト検出機能)	以下の変換オプションを設定できます。 テキストをイメージファイルから検出して、テキストとしてPDF ファイル内に挿入し、色を指定する。 ※イメージファイルからテキストを検出する場合、手書き文字、低解像度でスキャナから取り込んだ文字、その他はっきりしない文字は、検出されないまたは、別の文字として検出される場合があります。 テキストを検出して挿入する: テキストを検出して、PDF に挿入する場合は、チェックします。 テキストを可視にする: PDF にテキスト挿入する場合に、テキストの色を指定したい場合は、チェックします。チェックした状態になると、色の指定の項目のグレー表示が解除され色の指定が可能になります。 色: R(赤),G(緑),B(青)の各項目に、0~255 の色の度合いを入力する事で、色を指定する事が可能です。ダイアログで、色を参照しながら指定する場合は、色の選択ボタンをクリックします。
「OK」ボタン	表示されている内容を設定ファイルに保存して、終了します。
「キャンセル」ボタン	設定ファイルに保存せずに、終了します。

※OCR の読み取り精度は画像ファイルの解像度やファイルの状況に大きく影響されます。
ファイルによっては読み取り精度が大きく低下することがありますので、事前確認をお願いします。

8.2 セキュリティ変更/ファイルチェックオプション(別途有償)

PDF オートコンバータ EX に PDF ファイルをインプットすることができるようにするオプションがあります。この機能を使用することにより、以下の機能を実現できます。

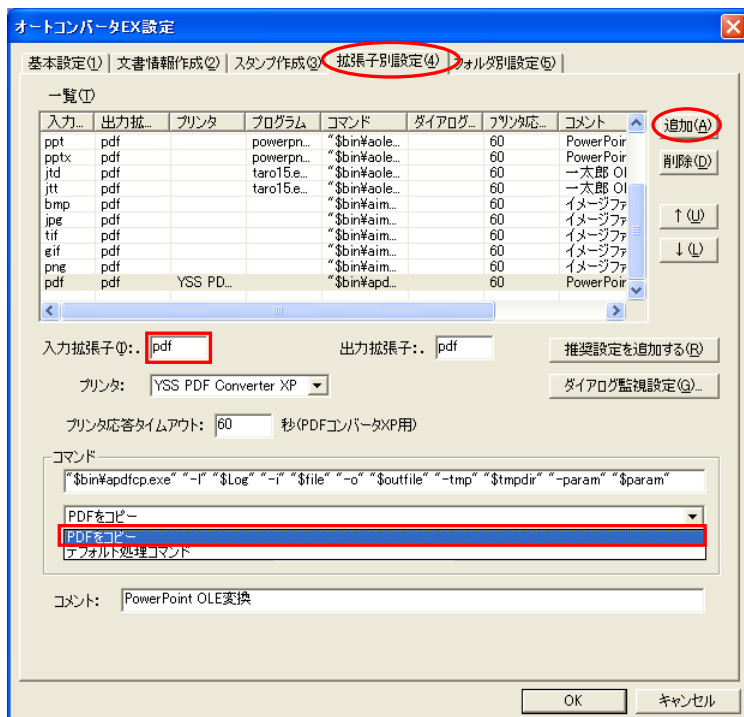
- ①PDF ファイルのセキュリティを変更できます。(RC40/128 対応)
- ②PDF ファイルが PDF オートコンバータ EX に投げ込まれた場合、そのままスルーできます。
- ③YSS の他の PDF 加工製品 (PDF メイクアップ) が処理できる PDF ファイルかチェックができます。

但し、上記オプションは有償ですので、価格は営業(eigy@iothe.co.jp)までお問合せください。操作方法は以下の通りです。

スタート→プログラム→Auto Converter EX VX.X.X→環境設定

環境設定ボタンを押して、拡張子別設定タブを選択

- ①「入力拡張子」に「PDF」を入力して追加ボタンを押す。
- ②「入力拡張子」に「PDF」が選択されていることを確認したうえで、コマンドラインの下のコンボボックスから以下のように、「PDF をコピー」を選択



オプションライセンス料の支払いが無いと、この機能は使用禁止です。ご注意ください。但し、PDF メイクアップ(セキュリティ付与・解除)を購入されている方は使用可能です。

- ※ファイルチェックオプションにつきましては、購入後のトラブルを避けるために、設定条件やパフォーマンスに対する影響等を当社営業よりご説明させて頂いてから購入頂くことをお願いいたしております。
- 当社に問い合わせのないお客様には販売できませんのでご注意ください。

9 どのように PDF を作成するのか

9.1 重要 PDF 作成方法によって各マニュアルを参照ください。

PDF オートコンバータ EX は 6 種類の変換方法があります。

以下の分類に応じて、必要なマニュアルを確認ください。

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| ① JavaAPI からの変換 | → HTML マニュアルをご確認ください。 |
| ② C の DLL からの変換 | → HTML マニュアルをご確認ください。 |
| ③ コマンドを呼び出して変換 | → HTML マニュアルをご確認ください。 |
| ④ サービス監視の IN→OUT 自動変換 | → 本マニュアルをご確認ください。 |
| ⑤ バッチサービス IN→OUT 自動変換 | → HTML マニュアル及び本マニュアルをご確認ください。 |
| ⑥ 特定の OEM 製品で動作 | → 以降の対応は不要です。OEM 製品マニュアルを参照。 |

9.1.1 JavaAPI からの変換と C の DLL からの変換を使う場合

9.1.1.1 注意事項 1

以下の表に従い、環境変数を設定して下さい。

PATH	PDF オートコンバータ EX をインストールしたディレクトリ直下の bin フォルダを追加
CLASSPATH	PDF オートコンバータ EX をインストールしたディレクトリ直下の java フォルダを追加

環境変数は、システム環境変数 (SYSTEM ユーザ権限の環境変数) に追加設定して下さい。ユーザ環境変数 (特定のログインユーザ権限の環境変数) に対して設定しても設定が有効にならない場合があります。

環境変数の設定は、Windows の環境変数設定画面で行います。[システムのプロパティ]ダイアログを開いて、設定をして下さい。

9.1.1.2 注意事項 2

①JavaAPI からの変換と②C の DLL からの変換を使う場合で、かつ、当社 PDF メイクアップも同時に使用する場合は、以下の 2 点にご注意ください。

(1)Java や C から呼び出す場合、HTML マニュアルに従って PATH を設定してください。その際に PDF メイクアップも同一マシンで動作させる場合、必ず PDF メイクアップ→PDF オートコンバータ EX の順番で PATH を設定してください。

【設定例】

C:\Program Files\YSS\PDF Makeup V2.1\bin;C:\Program Files\YSS\YSS Auto Converter EX V2.0\bin;

(上記のインストール先はデフォルトの設定の場合の例です。インストール先を別途設定された場合は、その設定先を必ず指定ください。

(2)PDF オートコンバータ EX Ver2.X を使用する場合、PDF メイクアップのバージョンも Ver2.X 以上をお願いします。

注意

コマンド/Java/C での変換の方は次ページ以降のサービス変換の項目を設定する必要はありません。

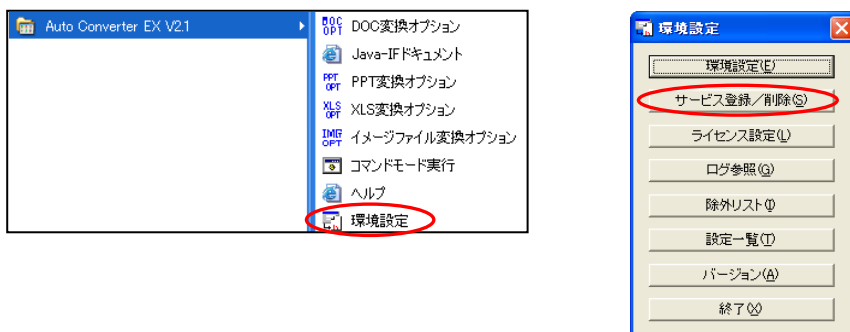
9.2 サービス変換

サービス登録を行うことにより、in に入ったファイルが自動で out に変換出力されるようになります。
この機能は in フォルダ・out フォルダ変換で常時変換をされる場合、設定してください。
コマンドモード変換、コマンド/Java/C で変換を行われる場合は設定不要です。

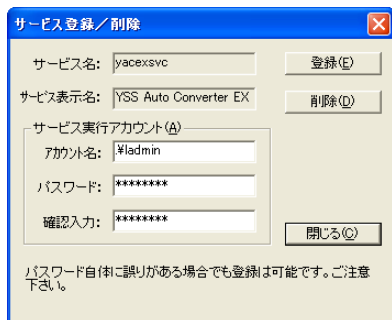
※WindowsServer2008 以降につきましては、セキュリティの強化の関係上、フォルダ間のファイルの移動が制限される場合があります。詳しくは 9.2.2 注意事項をご参照願います。

9.2.1 サービスの登録

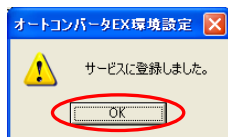
- (1)スタート→すべてのプログラム→Auto Converter EX VX.X.X→環境設定を選択してください。
環境設定画面が開きます。環境設定画面が開いたら、「サービス登録/削除」をクリックしてください。



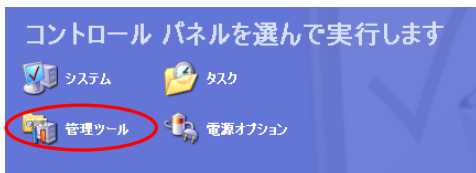
- (2)この画面が表示されますので、このマシン自体にアドミニストレータ権限のある「アカウント名」、「パスワード」を入力して、登録をクリックしてください。



(3)この画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。



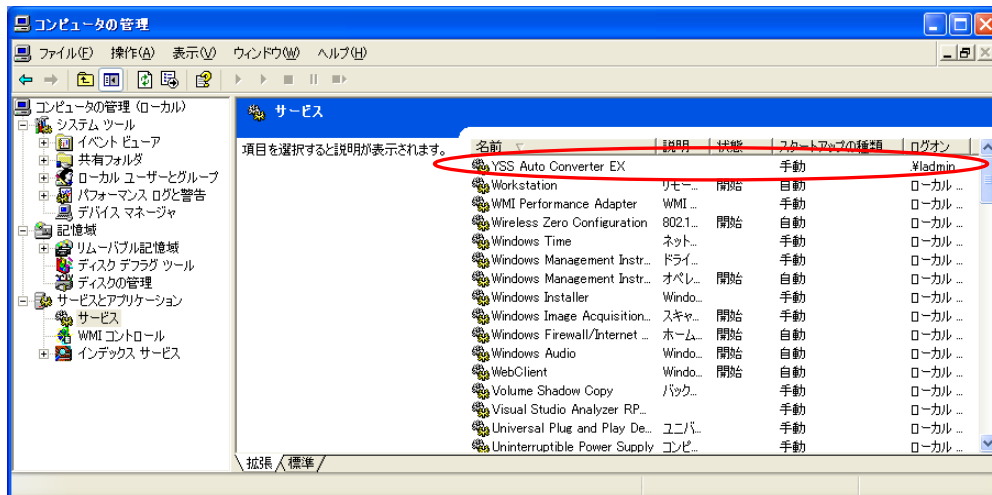
(4)次にコントロールパネルのパフォーマンスとメンテナンスから、「管理ツール」をダブルクリックしてください。



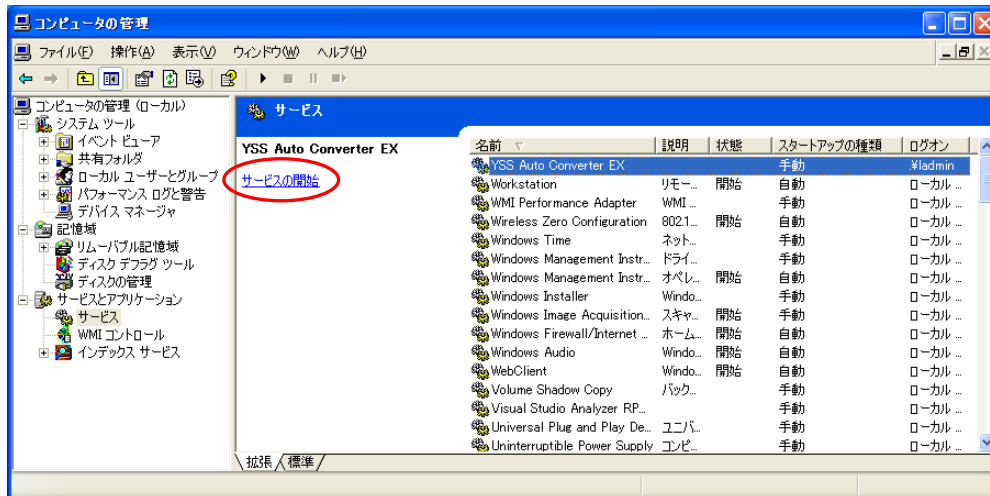
(5)管理ツールから、「サービス」をダブルクリックしてください。



(6)(2)でのサービス登録が成功していれば、「YSS Auto Converter EX」というサービスが登録されています。

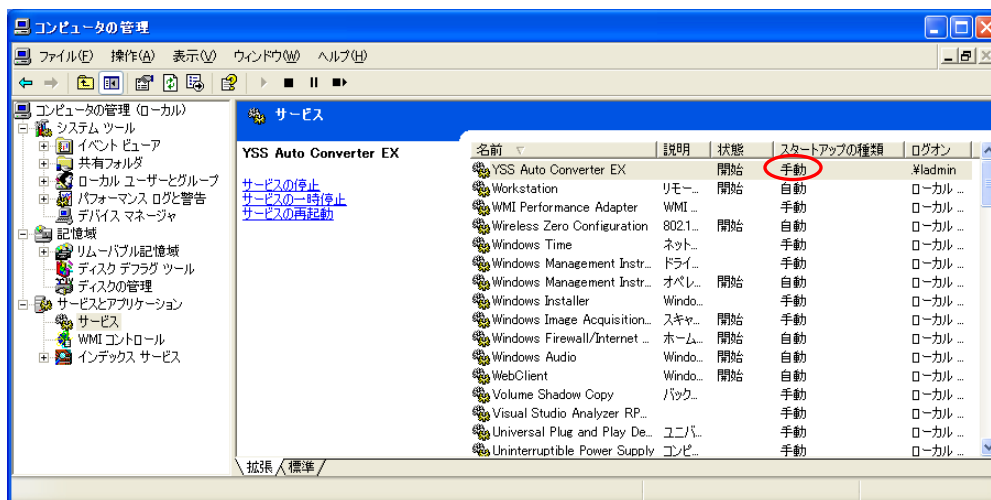


(7)「YSS Auto Converter EX」を選択すると表示される「サービスの開始」をダブルクリックしてください。

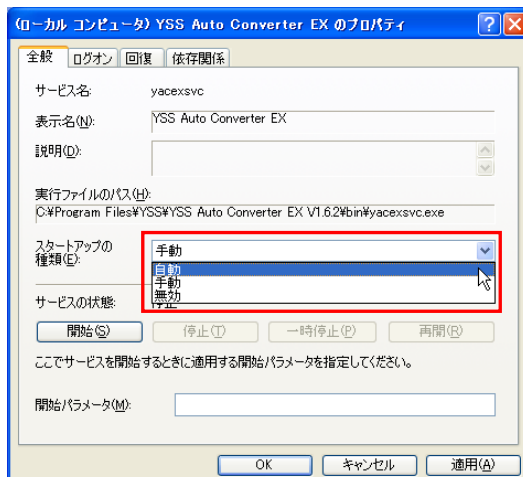


(8)サービスが開始されると、この画面が表示されます。

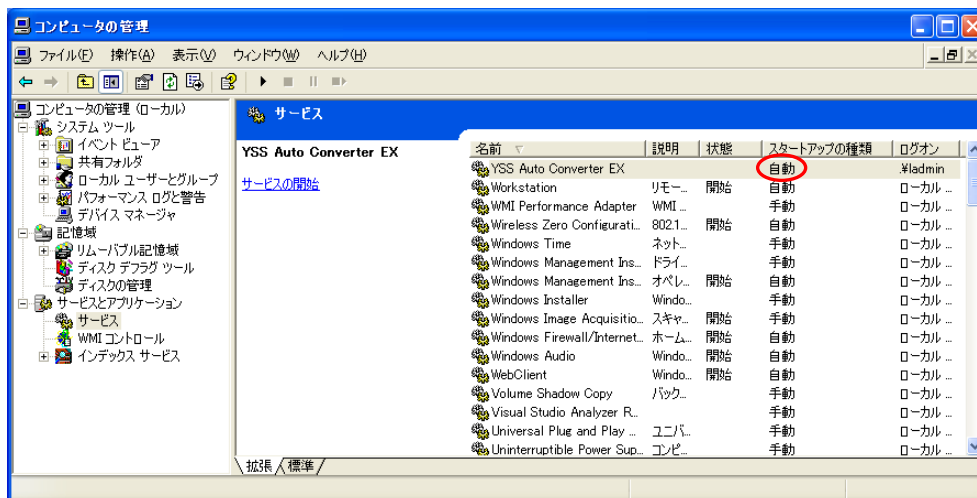
サーバを再起動しても常時 PDF 変換を行う際には、スタートアップの種類を「自動」に変更する必要があります。



(9)サービスの「YSS Auto Converter EX」の欄をダブルクリックして表示されるプロパティのスタートアップの種類を「手動」から「自動」に変更してください。



(10)手動から自動へ選択を変更するとこの画面のようになります。



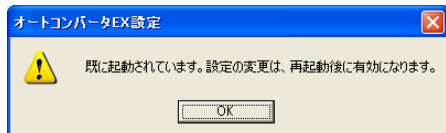
(11)最後に動作確認をいたします。

「in」フォルダに Office 等のファイルを入れて、PDF 変換ができるかどうかご確認ください。

詳細な設定につきましては、スタートメニュー→Auto Converter EX VX.X.X のヘルプを開きご確認ください。

9.2.2 注意事項

サービスの登録後、環境設定で変更を行うと、以下のようなダイアログが表示されます。



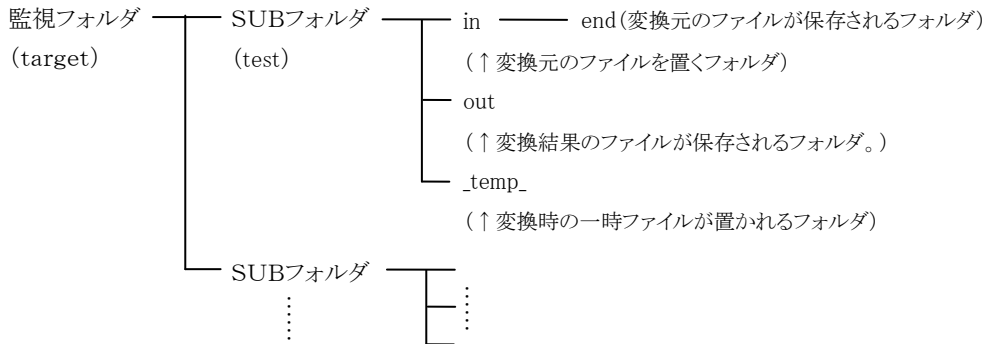
サービスを停止して、サービスを再起動してください。

※DOC 変換オプションなどのオプション機能の設定の変更では上記のダイアログは表示されません。

9.3 フォルダについて

サービスを利用した自動変換は環境設定で指定した監視フォルダの2階層下にある in フォルダの中にあるファイルを自動で変換します。

9.3.1 フォルダの構成（デフォルト環境の場合）

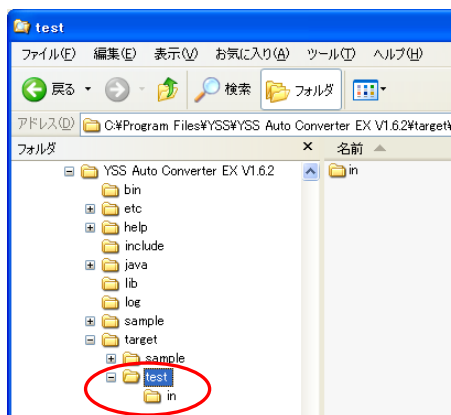


- 監視フォルダについて
監視フォルダは環境設定でフォルダの指定を変更することができます。
詳細な設定につきましては、スタートメニュー→Auto Converter EX VX.X.X のヘルプを開きご確認ください。
- SUB フォルダについて
in、end、out フォルダを格納します。フォルダ名は自由に設定できます。
- end フォルダについて
in フォルダから end フォルダに移動された変換元ファイルは正常に変換された場合は「OK」、変換できなかった場合は「NG/ERR」が変換ファイル名に付加されたファイル名で出力されます。

9.3.2 フォルダの作成

ここではインストール時に用意されている target (監視フォルダ) の下に「test¥in」を作成した例で説明します。
変換するファイルは「text.doc」とします。

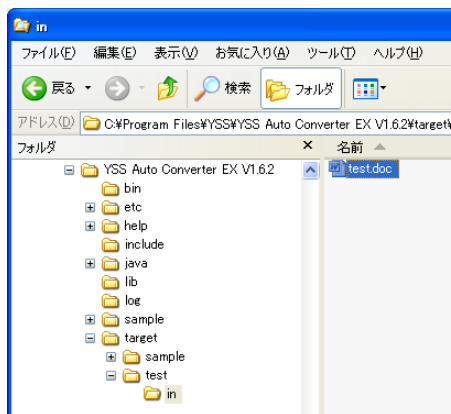
(1)target フォルダの下に任意の SUB フォルダを作成し、その作成した SUB フォルダの中に in フォルダを作成してください。(target フォルダの直下に in フォルダを作成しても自動で変換されません。必ず SUB フォルダの中に in フォルダを作成してください。)



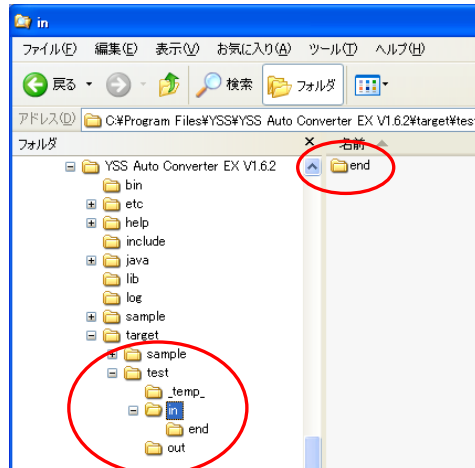
(2)in フォルダに text.doc を置いてください。

ファイルが自動で変換され、test フォルダの下に変換結果が保存される out フォルダ、一時フォルダの _temp_ フォルダが自動的に作成されます。また、in フォルダの下に end フォルダが作成され、変換元のファイルが移動されます。

test¥in に text.doc を置いた状態



自動変換され、それぞれのフォルダが作成された状態



- 自動で作成されるファイルは SUB フォルダの下にない時だけ作成されます。
それぞれのフォルダが既存の場合には、そのまま該当するフォルダに結果や変換元のファイルが保存されていきます。
- 変換元のファイルを保存しない「入力ファイル削除」の設定でも end フォルダは作成されます。
詳細な設定につきましては、スタートメニュー→Auto Converter EX VX.X.X のヘルプを開きご確認ください。

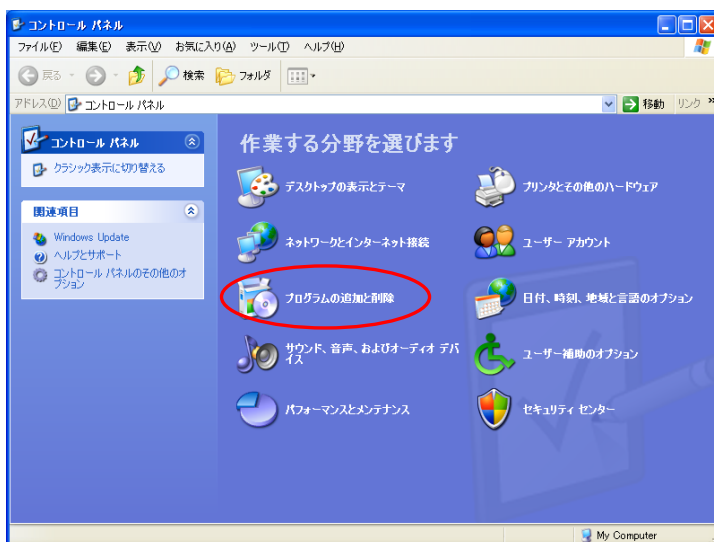
10 アンインストールの方法

PDF オートコンバータ EX のバージョンアップ等の際には、先ずアンインストールが必要となります。
下記の手順に従って PDF オートコンバータ EX をアンインストールしてください。

10.1 アンインストールの方法

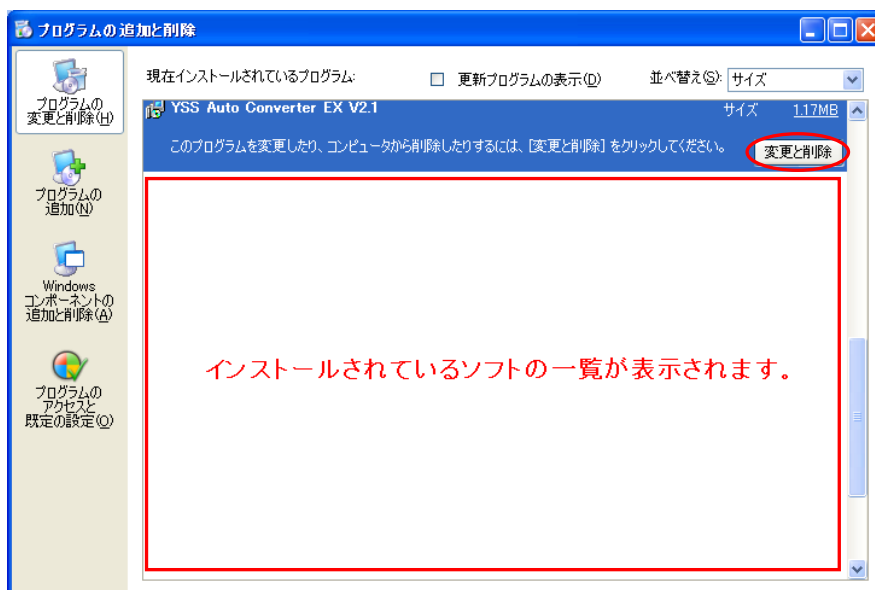
(1) アドミニストレータ権限のあるアカウントでログインします。
(ログインできない場合は、システム管理者に確認してください。)

(2) コントロールパネルを開き、プログラムの追加と削除アイコンを右クリックします。

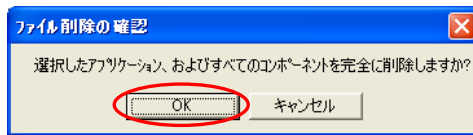


(3) プログラムの追加と削除画面が開きます。

現在インストールされているプログラムから YSS Auto Converter EX VX.X.X を選択し、変更と削除ボタンをクリックします。

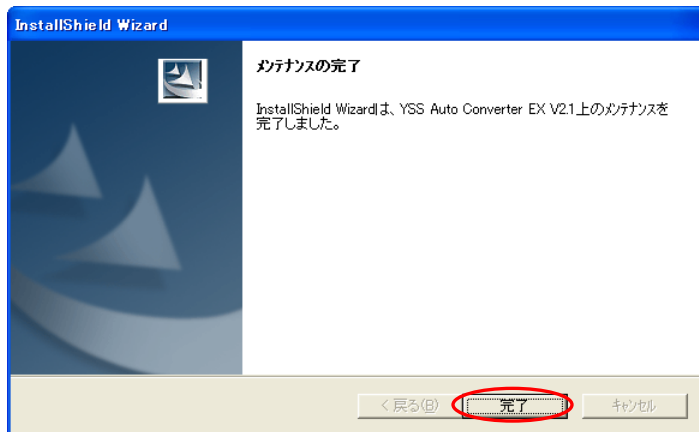


(4)ファイル削除の確認ダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックすると削除が実行されます。



(5)削除が完了すると、この画面が表示されます。

「完了」ボタンをクリックすると画面は閉じられます。



以上で、アンインストールは完了です。

※PDF コンバータのアンインストールは PDF コンバータのマニュアルをご確認ください。

11 困ったときは

11.1 動作時

11.1.1 サービスを使ってPDFオートコンバータ EX が動かない時 (IN→OUT 変換の場合)

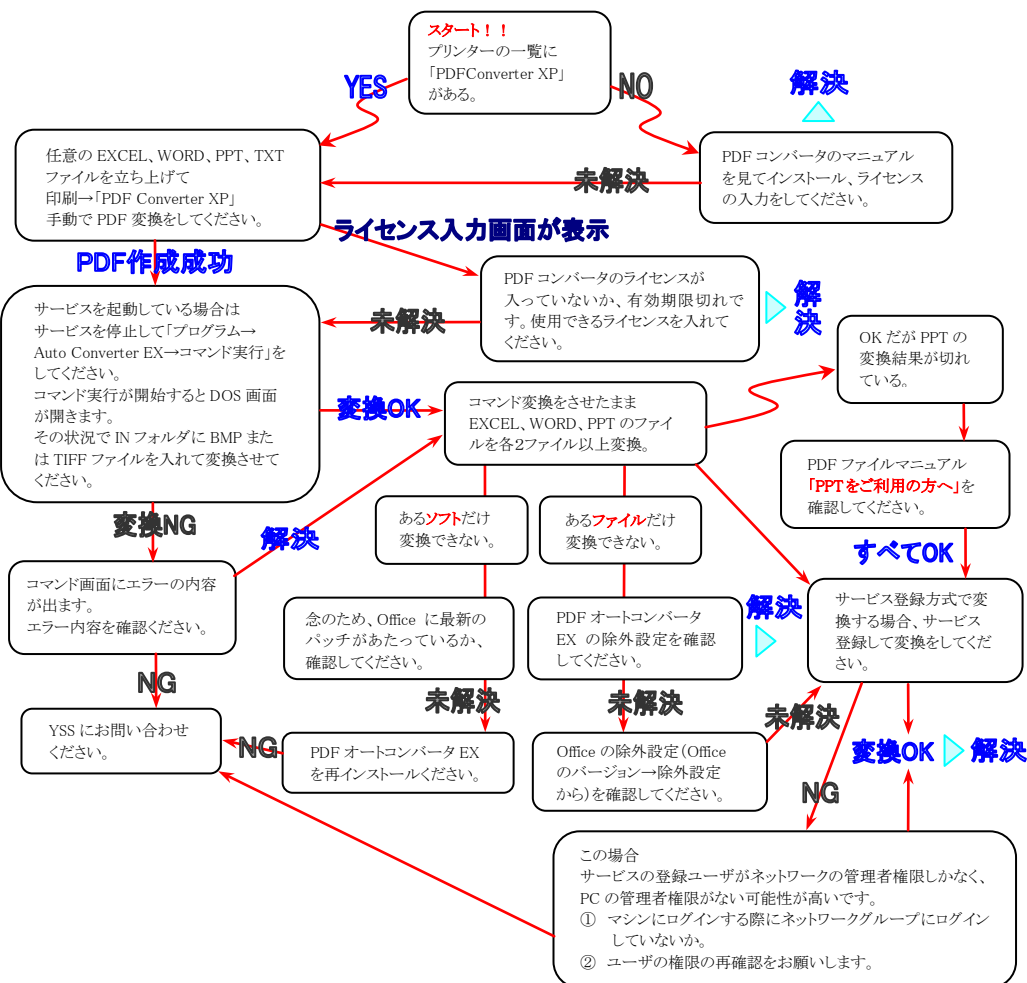
◆ 連絡前の事前チェック

サービスを利用した変換が上手く行かない場合、以下の項目をチェックしてください。

- 該当サーバ・PCの管理者権限でインストール・サービス登録してください。
(ネットワークの管理者・パスワードのないユーザではNGです。)
- OS と Office の最新のパッチがあたっていることを確認してください。
- PDF コンバータをインストールしていることを確認してください。
- ハイパースレッティング OFF にしてください。

◆ 対処法

以下に各対処法が記載されていますので、ご確認ください。



11.2 上記のフォローに対応しても変換が上手くいかない場合

以下のいずれに該当するのか、切り分けをお願いします。この切り分けの情報は当社サポートに連絡する場合にも必ずご連絡ください。

- ① すべてのファイルが変換できない
- ② Office だけすべてのファイルが変換できない(画像等は変換できる)
- ③ Excel だけすべてのファイルが変換できない(Word や画像は変換できる)
- ④ 特定のファイル名だけ変換できない。
- ⑤ 特定のファイルだけ変換できない。

11.2.1 すべてのファイルが変換できない場合

Excel/Word/PPT/BMP/JPEG 等すべての種類のすべてのファイルが変換できない場合の対応方法です。

- まず、どのようなエラーが出ているのか確認ください。エラーも出ていない場合、何か基本的な設定の間違いが考えられます。まず、インストールマニュアルに沿って再度インストールして頂くことをお勧めします。

↓

- それでも原因が分からない場合は当社までお問い合わせください。

11.2.2 Office だけすべてのファイルが変換できない(画像等は変換できる)

BMP/JPEG 等は変換できるのに、Excel/Word/PPT はどんなファイルでも変換できない場合は以下をご確認ください。変換できるファイルがある場合は、別の項目を確認ください。

- Office のパッチが最新になっているか確認ください。初期の Office はバグがあるため正常に動作しないことがあります。最新のパッチを必ずあててください。

↓

- WindowsServer2008/Vista/Windows7 で変換の場合、「【重要】WindowsServer2008/Vista/Windows7 における必須の設定」のページをご確認ください。

↓

- 変換の起動ユーザが「そのマシンのアドミニストレータ」であることを確認ください。「ネットワークやワークグループのアドミニストレータ」では権限不足で変換できません。

↓

- それでも原因が分からない場合は当社までお問い合わせください。

11.2.3 Excel だけすべてのファイルが変換できない場合

Word/PPT/BMP/JPEG は変換できるが、Excel だけはどんなファイルでも変換できない場合は以下をご確認ください。Excel で変換できるファイルがある場合は、別の項目を確認ください。

- Office のパッチが最新になっているか確認ください。初期の Office はバグがあるため正常に動作しないことがあります。最新のパッチを必ずあててください。

↓

- WindowsServer2008/Vista/Windows7 で変換の場合、「【重要】WindowsServer2008/Vista/Windows7 に

おける必須の設定」のページをご確認ください。

↓

- 変換の起動ユーザが「そのマシンのアドミニストレータ」であることをご確認ください。「ネットワークやワークグループのアドミニストレータ」では権限不足で変換できません。

↓

- それでも原因が分からない場合は当社までお問い合わせください。

11.2.4 特定のファイル名のファイルだけ変換できない場合

ファイルや拡張子が除外され上手く変換されていない可能性が考えられます。

以下の項目をご確認ください。

◆ PDF オートコンバータ EX の除外リスト

自動変換プログラムが、in フォルダから end フォルダへのファイル移動時にエラーを検出した場合、プログラムの構成上、次の処理に進む事が出来なくなります。この場合に、移動に失敗したファイルを除外リストに追加する事で、このファイルに対する一切の処理を停止します。

除外リストは、環境設定で、一時ファイルフォルダに指定されたフォルダ下に「ignore.txt」として作成されます。

一度除外リストに追加されたファイルをもう一度処理対象にするには、このファイルを削除してください。

◆ Excel、Word、PowerPoint の使用できないアイテム (Office 2003 の機能です。)

Office 2003 (Excel、Word、PowerPoint) では一度トラブルがあったファイルを使用できないアイテムとして自動検出し、登録する機能があります。こちらに登録をされたファイルは変換できません。

※使用できないアイテムは、Office 2003 の機能です。

解除の方法は Excel 2003 での操作を例に説明します。

Excel のツールバーのバージョン情報→ヘルプを選択してください。バージョン情報画面が開きます。この画面の「使用できないアイテム」ボタンをクリックしてください。使用できないアイテム画面が開きます。ここに登録されているファイルは変換できません。変換できるようにしたいファイルを選択し、「有効にする」ボタンをクリックしてください。画面からファイル名が消え、解除されたことが確認できます。

◆ 除外拡張子

以下の拡張子は、デフォルトで変換処理から除外されます。

「com, exe, bat, cmd」また、このリストを変更するには、etc¥ignoreext.txt を編集してください。

これらの拡張子が in フォルダ内で検出された場合は、エラー扱いとして end フォルダへ移動されます。

またログには「[608]:デフォルトの除外拡張子の為、処理しませんでした。」のメッセージが出力されます。

11.2.5 特定のファイルだけ変換できない場合

同じアプリケーションの別ファイルは変換できるのに、ある特定のファイルだけ変換できない場合は、ファイルに問題がある可能性が高いです。ファイルを開いて普通にプリンタに印刷ができるファイルであれば、当社サポートまでお問い合わせください。

11.2.6 お問い合わせについて

本製品をインストールして正常に動作しなかった場合、このインストール・ガイドのインストール手順をもう一度確認してください。それでもエラーが発生する場合、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

また、お客様の使用方法によっては、個別の設定が必要な場合もあります。

お問い合わせの際には下記内容をお問い合わせ先までお知らせください。

ご連絡先	ご氏名	
	E-Mail アドレス	
	TEL	
	FAX	
	保守契約番号	
	ライセンス番号	
	メディア番号	
	貴社名	
	貴部署・役職	
ご使用環境	当社製品名	
	バージョン	
	製品版/体験版	
	インストール時期	
	マシン	
	CPU	
	メモリ	
	OS	
	OS のバージョン	
	特記事項	
問題の現象について	件名	
	内容	
添付ファイル一覧	現象の再現確認のため、問題の現象が確認されたファイル等のご提供をお願いします。	
	添付ファイル名	
その他	特定のファイルで問題が起きる等の場合は、当該ファイルを作成したアプリケーション等についてもご記入ください。	

お問い合わせ先

株式会社ワイ・エス・エス

サポート窓口

E-mail : contact@iothe.co.jp

TEL : 044-211-9332

OEM 製品でご使用を頂いている場合には、OEM 製品提供窓口にお問合せください。

- ※ Microsoft、PowerPoint、Word、Excel および Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ※ Adobe、Adobe Reader は Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)及びその子会社の各国での商標です。
- ※ その他の製品名および社名は各社の登録商標または商標です。
- ※ 製品の仕様は性能向上のため予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

YSS PDF Auto Converter EX Install guidebook

Copyright(C) YSS CO.,LTD.

TEL: 044-211-9332

URL: <http://www.iothe.co.jp/>